公益社団法人日本薬理学会報告

本報告は平成 29 年度の学術評議員会・通常総会資料を基に作成しています．学会誌の刊行，決算及び収支予算については，会計（事業）年度で提示しています．

【 目　次 】

Ⅰ．学術評議員会及び通常総会報告

Ⅱ．平成 28 年度事業報告

Ⅲ．平成 28 年度決算報告

Ⅳ．平成 29 年度事業計画

Ⅴ．平成 29 年度収支予算

Ⅵ．部会選出新常置委員一覧

Ⅶ．規則の変更

Ⅷ．理事会等報告

Ⅸ．委員会等報告

Ⅹ．新学術評議員一覧

Ⅰ．学術評議員会及び通常総会報告

日　時：平成 29 年 3 月 15 日（水）17 時 15 分～19 時 30 分

場　所：長崎ブリックホール 大ホール（長崎県長崎市）

議決権を有する構成員数：総会（140 名），学術評議員会：1,264 名

議決権を有する出席者数：通 常 総 会　：出席者数 126 名（本人出席 93 名，議決権行使 29 名，委任状 4 名）
学術評議員会　：出席者数 813 名（本人出席 324 名(うち役員 19 名)，委任状 489 名）

議長及び議事録署名人：　通 常 総 会　：議　長 ：赤池 昭紀　　署名人：金子 周司，五嶋 良郎
学術評議員会　：議　長 ：植田 弘師　　署名人：金子 周司，五嶋 良郎

付議事項

第 1 号議案　平成 28 年度事業報告及び決算の件

理事長より，配布した資料に基づき平成 28 年度事業報告及び会員の状況が報告された．続いて財務委員長より平成 28 年度決算について貸借対照表，正味財産増減計算書，貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書並びに財産目録について説明と報告がなされた．

監事より，平成 28 年度公益社団法人日本薬理学会の事業及び決算を監査の結果，適正に処理されていることを確認した旨の監事監査結果が報告された．

議長より，平成 28 年度事業報告及び決算について付議され，本会議は満場一致でこれを承認，可決した．

第 2 号議案　平成 29 年度事業計画及び収支予算の件

平成 29 年度の事業計画について理事長より，平成 29 年度予算について財務委員長より，それぞれ説明がなされた．公益社団法人の予算は，理事会の承認を経て事業年度開始前に内閣府に提出するため，本会議に提示する事業計画及び予算は，平成 28 年 12 月 16 日に開催された理事会で承認され，昨年末に内閣府に提出したものであること，平成 29 年は WCP2018 の最終準備期間にあたるため，各国薬理学会との連携をさらに強化していくとの方針が合わせて説明された．

議長より平成 29 年度事業計画及び予算について付議され，本会議は満場一致でこれを承認した．

第 3 号議案　諸規則の件

総務委員長より，1）定款施行細則第 10 条第 2 項に「学術評議員会選出理事が任期中に部会を異動した場合，転出後の部会で学術評議員としての資格を有する．ただし，部会を転出した後も，選出された部会の理事として職務を行う」とする理事の帰属と職務を追加する定款施行細則変更案，2）満 64 才で就任した役員，常置委員が，在任中に名誉会員の資格を充足する場合でも，原則 2 年の任期を全うしてもらうこととし，名誉会員推薦要件に「役員または常置委員在任中ではない者」を追加する名誉会員推薦規定変更案，3）代議員選挙の投票有権者を，「選挙公示日の前月 1 日において当該選挙区に所属する正会員」とする代議員選挙規定変更案，4）役員候補者被選挙権者を推薦できる者は，「推薦投票公示日の前月 1 日において当該部会に所属する学術評議員」とする役員等選挙実施規定変更案，5）内閣府立入検査の改善すべき事項に対応した年会会計運用規則の変更案及び各授賞規定への賞金額の明記，6）慶事の基準を別表として追加する慶弔に関する取扱規則の変更案が合わせて付議され，本会議は満場一致でこれを承認，可決した．

第 4 号議案　名誉会員及び永年会員の件

理事会が推薦した名誉会員候補者 尾崎 博，木村 純子，柳原 延章 3 氏の平成 29 年度名誉会員への推戴，及び永年会員候補者 安東 潔，伊藤 継孝，高橋 和雄，田中 實，鍋嶋 詢三，西尾 伸太郎，牧村 瑞惠，松田 宏三，村上 元 9 氏の平成 29 年度永年会員への推戴の件について付議され，本会議は満場一致で承認，可決した．

第 5 号議案　第 92 回年会長の件

理事長より，1）第 92 回年会が開催される平成 31 年は，第 32 回日本医学会総会中部が開催されることに合わせて近畿部会を開催部会としたこと，2）理事会は大阪大学大学院医学系研究科の金井 好克教授を第 92 回年会長として選考したこと，が報告された．議長より，金井 好克教授を第 92 回年会長に決定する件につき付議され，本会議は満場一致でこれを承認，可決した．

第 6 号議案　新学術評議員の件

企画教育委員長より，新学術評議員候補者として 45 名を選定したことが審査経過とともに報告された．議長より，平成 29 年度学術評議員に選任する件について付議され，本会議は満場一致でこれを承認，可決した．

各種報告

1. 理事会報告が理事長より，常置委員会報告，特別委員会報告が各委員長又は委員長代行よりなされた．ダイバーシティの取組報告がダイバーシティ担当理事より，次世代の会の活動報告が同会代表よりなされた．

2. 植田 弘師第 90 回年会長より，平成 29 年の年会の案内及び準備状況が報告された．

Ⅱ．平成 28 年度事業報告

１．学術集会,講演会等の開催（定款第 4 条第 1 号）

(1) 年　　会

第 89 回日本薬理学会年会『Voyage beyond the Horizon』

平成 28 年 3 月 9 日（水）～11 日（金），パシフィコ横浜　会議センター（神奈川県横浜市）

年会長：石井　邦雄（北里大・薬），参加者 2,280 名，総演題数 990 演題

（学術評議員 571 名，一般会員 443 名，非会員 279 名，大学院生 310 名，学部学生 292 名，
名誉会員・永年会員・招待演者・共催セミナー・展示企業関係者等 385 名）

プレナリーレクチャー 1，特別講演 9，JPS-ASPET Lecture 1，受賞講演 4（江橋節郎賞 1，学術奨励賞 3），
教育セミナー 20，シンポジウム 224 演題，ワークショップ 16，一般演題 649（優秀発表賞候補演題 72，口演 153，
ポスター424），若手研究者キャリア支援プログラム 66（学生セッション）

(2) 地方部会

第 129 回日本薬理学会近畿部会　　部会長：小澤光一郎（広島大学･院･医歯薬保健）
平成 28 年 6 月 24 日　広島県医師会館(広島市)
参加者約 180 名，一般演題（口演 79）

第 134 回日本薬理学会関東部会　　部会長：武田　弘志（国際医療福祉大学･薬）
平成 28 年 7 月 9 日　国際医療福祉大学(栃木県大田原市)
参加者約 210 名，シンポジウム 4，一般演題（口演 42,ポスター25）

第 67 回日本薬理学会北部会　　部会長：三輪　聡一（北海道大学･院･医）
平成 28 年 9 月 30 日　北海道大学学術交流会館(札幌市)
参加者約 130 名，一般演題（口演 59）

第 135 回日本薬理学会関東部会　　部会長：梅村　和夫（浜松医科大学･医）
平成 28 年 10 月 8 日　アクトシティ浜松(静岡県浜松市)
参加者約 160 名，シンポジウム 5，一般演題（口演 36，ポスター16）

第 130 回日本薬理学会近畿部会　　部会長：金子　周司（京都大学･院･薬）
平成 28 年 11 月 19 日　京都大学百周年時計台記念館(京都市)
参加者 322 名，一般演題（口演 62，ポスター23）

第 69 回日本薬理学会西南部会　　部会長：荒木　博陽（愛媛大学病院･薬剤部）
平成 28 年 11 月 26 日　松山大学(愛媛県松山市)
参加者約 190 名，特別講演 1,ランチョンセミナー1，一般演題（口演 48，ポスター16）

(3) セミナー等の開催（年会会期分を除く）

・新薬理学セミナー2016　　平成 28 年 7 月 9 日，国際医療福祉大学(栃木県大田原市)，参加者　79 名
『プロバイオティクスが拓く新たな創薬研究』世話人：武田　弘志(国際医療福祉大学･薬)

・新薬理学セミナー2016　　平成 28 年 11 月 19 日，京都大学百周年時計台記念館(京都市)，参加者　約 120 名
『iPS 細胞と創薬』　　世話人：金子　周司(京都大学･院･薬)

・公開講座（第 89 回年会）　　平成 28 年 3 月 12 日，北里大学薬学部ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝﾎｰﾙ（東京都港区），参加者 134 名
『薬の過去・現在・未来－その役割の変遷－』　　責任者：石井 邦雄（北里大学･薬）

・公開講座(近畿部会)　　平成 28 年 6 月 24 日，広島県医師会館(広島市)，参加者：約 90 名
『ここまでわかったうつ病－脳科学を応用した最先端治療への挑戦－』
責任者：小澤光一郎（広島大学･院･医歯薬保健）

・公開講座(西南部会)　　平成 28 年 10 月 2 日，松山大学 9 号館(愛媛県松山市)，参加者：約 120 名
『第 14 回薬剤師会お薬セミナー』　(一社)愛媛県薬剤師会と共催　責任者：荒木　博陽（愛媛大学病院･薬剤部）
①「大丈夫ですか？あなたの目　これだけは知っておきたい！目の危険な症状」
②「命をつなぐ造血幹細胞移植医療～今、私たちができること～」

(4) 他学会等との共催学術集会の開催

・日本薬理学会・日本医学会連合共催シンポジウム
第 89 回日本薬理学会年会時　　平成 28 年 3 月 9 日，パシフィコ横浜・会議センター(神奈川県横浜市)
『免疫薬理－免疫疾患への革新的な治療法開発と薬理学の新たな役割』
オーガナイザー：成宮　周(京都大学･院･医)
石井　優(大阪大学･院･医)

・日本薬理学会・日本臨床薬理学会共催教育セミナー
第 89 回日本薬理学会年会時　　平成 28 年 3 月 9 日，パシフィコ横浜・会議センター(神奈川県横浜市)
『科学研究における倫理の質を高める』
オーガナイザー：福永 浩司(東北大学･院･薬)
熊谷 雄治(北里大学病院)

・日本薬理学会・日本臨床薬理学会共催シンポジウム
第 37 回日本臨床薬理学会学術総会時　　平成 28 年 12 月 2 日，米子市コンベンションセンター(鳥取県米子市)
『進むオーファンドラッグ（希少疾患用医薬品）に対する創薬』
オーガナイザー：安藤　仁(金沢大学･院･医)
安西 尚彦(千葉大学･院･医)

・日本薬理学会・日本生理学会共催シンポジウム
第 89 回日本薬理学会年会時　　平成 28 年 3 月 10 日，パシフィコ横浜･会議センター(神奈川県横浜市)
『光遺伝学や薬理遺伝学を用いた痛みの研究の最前線』
オーガナイザー：山中 章弘(名古屋大学･環境医学研)
成田　年(星薬科大学)

・日本薬理学会・日本毒性学会共催シンポジウム
第 89 回日本薬理学会年会時　　平成 28 年 3 月 10 日，パシフィコ横浜･会議センター(神奈川県横浜市)
『ガス状分子と活性イオウによる病態制御機構の解明』
オーガナイザー：松本 明郎(千葉大学･院･医)
渡邊 泰男(昭和薬科大学)
熊谷 嘉人(筑波大学･医学医療系)

(5) 内外の関連学術団体との連携及び協力

・ASPET（米国薬理学会）と JPS（日本薬理学会）との講師交換プログラムを開始し，第 89 回年会に ASPET から Jeffrey Conn 教授を招へいした.

・10 月 21 日から 23 日までパリで開催された IUPHAR Nomenclature Committee (NC-IUPHAR) の会合に金井 好克教授が出席した.

・IUPHAR Executive Committee が 11 月 30 日から 12 月 2 日までオーストラリアのメルボルンで開催され，IUPHAR の理事会に 2nd Vice President の飯野正光教授が出席し，WCP2018 の準備状況について報告を行った.

・鳥取県の米子コンベンションセンターで開催された第 37 回日本臨床薬理学会学術総会期間中の 12 月 3 日に，2011 年のウルムチ開催以来中断されていた日中薬理学・臨床薬理学ジョイントミーティング（第 6 回）が開催された．本会から松木則夫理事が参加し，また安西尚彦国際対応委員会委員が本会を代表し，講演を行った.

・IUPHAR Education Project（発展途上国等の薬理学教育を推進する目的のプログラム）に賛同し，平成 28 年度を含む 3 年間の期限付きの財政的援助を行うことを決定した．平成 28 年度分として 1 万ドルを送金した.

２．学会誌等刊行物の刊行（定款第 4 条第 2 号）

(1) Journal of Pharmacological Sciences の刊行

発行巻号　　130 巻 1～4 号，131 巻 1～4 号，132 巻 1～4 号
130 巻 Supplement (the 89th Annual Meeting)

		掲載頁数	(篇数)
① Review		36 頁	(5)
② Full Paper		650 頁	(83)
③ Short Communication		120 頁	(29)
④ Letter,他		4 頁	(1)
	小計	810 頁	(118)
⑤ Vol.130 Supplement		294 頁	
	合計	1,104 頁	(118)

(2) 日本薬理学雑誌（くすりとからだ／ファーマコロジカ）の刊行

発行巻号（部数） 147 巻 1～2 号（各 4,100 部），147 巻 3 号（4,150 部），147 巻 4 号（3,250 部），
147 巻 5 号（3,500 部），147 巻 6 号（3,700 部）
148 巻 1 号（3,650 部），148 巻 2 号（3,700 部），148 巻 3 号（3,750 部）
148 巻 4 号（3,800 部），148 巻 5 号（3,850 部），148 巻 6 号（4,000 部）

	掲載頁数	（篇数）
① 特集序文	20 頁	(20)
② 特集および総説	425 頁	(81)
③ 実験技術	23 頁	(4)
④ 創薬シリーズ	56 頁	(9)
⑤ 新薬紹介総説	91 頁	(10)
⑥ キーワード解説	12 頁	(5)
⑦ 最近の話題	12 頁	(12)
⑧ サイエンス/リレーエッセイ	9 頁	(9)
⑨ 学会便り/研究室訪問	9 頁	(9)
⑩ アゴラ	24 頁	(12)
⑪ 広告	109 頁	
⑫ 綴込み，目次等上記以外の頁	184 頁	
合計	974 頁	(171)

(3) 会員名簿の発行

所属別会員名簿 1 冊

３．研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第 4 条第 3 号）

(1) 第 9 回日本薬理学会江橋節郎賞授賞

森 泰生（京都大学大学院地球環境学堂及び工学研究科･教授）

第 10 回日本薬理学会江橋節郎賞決定

池谷 裕二（東京大学大学院薬学系研究科･教授）

(2) 第 31 回日本薬理学会学術奨励賞授賞（所属等の標記は授賞時）

青木 友浩（京都大学大学院医学研究科 次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点）
『トランスレーショナルリサーチとしての脳動脈瘤形成機序の薬理学的研究』

小坂田文隆（名古屋大学大学院創薬科学研究科 細胞薬効解析学）
『新規狂犬病ウイルストレーシング法による神経回路の構造・機能・再生の解明』

中野 大介（香川大学医学部 形態機能医学講座 薬理学）
『腎臓病進展における病態生理の解明と治療戦略の構築』

第 32 回日本薬理学会学術奨励賞決定（裏表紙）

(3) 第 21 回 Journal of Pharmacological Sciences 優秀論文賞決定（掲載順）

Inhibition of Autophagy Enhances Sunitinib-Induced Cytotoxicity in Rat Pheochromocytoma PC12 cells
Tatsuhiko Ikeda, Kiyo-aki Ishii, Yuria Saito, Masahiro Miura, Aoi Otagiri, Yasushi Kawakami, Hitoshi Shimano, Hisato Hara, Kazuhiro Takekoshi
J Pharmacol. SCI. Vol. 121, No. 1 pp. 67-73 (2013)

Stimulation of Metabotropic Glutamate (mGlu) 2 Receptor and Blockade of mGlu1 Receptor Improve Social Memory Impairment Elicited by MK-801 in Rats
Hirohiko Hikichi, Ayaka Kaku, Jun-ichi Karasawa, Shigeyuki Chaki
J Pharmacol. SCI. Vol. 122, No. 1 pp. 10-16 (2013)

(4) 第 89 回年会優秀発表賞（五十音順･11 名）

今井 博貴（秋田大･医･情報制御）
大内 彩子（北里大･薬･薬理）
奥田 洸作（岡山大･院医歯薬･薬効解析）
梶 典幸（東京大･院農･獣医薬理）
神戸 悠輝（鹿児島大･医･生体情報薬理）
北島 奈美（東京大･院医･細胞分子薬理）
児玉 昌美（東京医科歯科大･難治研･生体情報薬理）
周 至文（東京大･院薬･薬品作用）
續 啓史（九州大･医･病態修復内科）
松田 弘美（北里大･医･薬理）
宮脇 昭光（大阪大･院薬･臨床薬効解析）

４．薬理学に関する研究及び調査（定款第 4 条第 4 号）

(1) 会員動態の調査

会員動態の調査として，年会参加者の年齢・性別のアンケート調査を実施している．アンケートは今後も継続する．

(2) ホールアニマルを用いた実験法等の継承や教育を目的としたデータベース構築を目指し，大学等の施設における動物実験の実施状況を調査するためアンケートを実施した．

５．内外の関連学術団体との連携及び協力（定款第 4 条第 5 号）

(1) 学術集会の共催および連携　上記 1.の(4)，(5) を参照

(2) 学術集会の協賛･後援　（平成 28 年年会から平成 29 年年会前まで）

協　賛

1)	生命分子機能研究会セミナー2016 「生命分子・ペプチド科学に基づく創薬：医療への貢献」	平成 28 年 3 月 18 日
2)	第 23 回 HAB 研究機構学術年会	5 月 26～28 日
3)	第 43 回日本毒性学会学術年会	6 月 29 日～7 月 1 日
4)	第 20 回活性アミンに関するワークショップ	8 月 20 日
5)	CBI 学会 2016 年大会	10 月 25～27 日
6)	第 26 回日本循環薬理学会	12 月 2 日

後　援

1)	第 63 回日本実験動物学会総会	平成 28 年 5 月 18 日～20 日
2)	第 11 回日本分子イメージング学会総会・学術集会	5 月 28, 29 日
3)	日本ケミカルバイオロジー学会 第 11 回年会 （第 68 回日本細胞生物学会大会 合同大会）	6 月 15～17 日
4)	医療薬学フォーラム 2016 第 24 回クリニカルファーマシーシンポジウム	6 月 25, 26 日
5)	第 46 回日本神経精神薬理学会年会	7 月 2, 3 日
6)	第 11 回トランスポーター研究会年会	7 月 2, 3 日
7)	「新時代の循環器研究を考える」医工連携国際シンポジウム 2016	7 月 11, 12 日
8)	第 18 回応用薬理シンポジウム	8 月 5, 6 日
9)	第 21 回日本病態プロテアーゼ学会学術集会	8 月 5, 6 日
10)	第 61 回「脳の医学・生物学研究会」	8 月 20 日
11)	創薬薬理フォーラム第 24 回シンポジウム	9 月 28, 29 日
12)	第 9 回トランスポーター研究会九州部会	10 月 1 日
13)	日本薬物動態学会第 31 回年会	10 月 13～15 日
14)	第 1 回黒潮カンファレンス	10 月 22, 23 日
15)	第 2 回ゼブラフィッシュ創薬研究会	11 月 4 日
16)	第 62 回「脳の医学・生物学研究会」	平成 29 年 2 月 11 日
17)	第 26 回神経行動薬理若手研究者の集い	3 月 14 日

6．会議等の開催状況（平成 28 年年会から平成 29 年年会前まで）

総　　会	平成 28 年度通常総会	平成 28 年 3 月 9 日	(横浜)
学術評議員会	平成 28 年度	平成 28 年 3 月 9 日	(横浜)
理　事　会	平成 28 年度 第 4 回	平成 28 年 4 月 23 日	(東京)
	第 5 回	7 月 8 日	(東京)
	第 6 回	12 月 16 日	(東京)
	平成 29 年度 第 1 回	平成 29 年 2 月 23 日	(書面決議)
	第 2 回	3 月 14 日	(長崎)
WCP2018 組織委員会	平成 28 年度 第 1 回	平成 28 年 3 月 9 日	(横浜)
	第 2 回	7 月 4 日	(東京)
	平成 29 年度 第 1 回	平成 29 年 1 月 30 日	(東京)
総務委員会	平成 28 年度 第 1 回 持ち回り開催	平成 28 年 11 月 1 日	(東京)
財務委員会	平成 28 年度 第 1 回	平成 28 年 11 月 21 日	(東京)
	予算案検討ワーキング	11 月 14 日	(東京)
	会　計　監　査	平成 29 年 1 月 17 日	(東京)
		1 月 23 日,25 日	(東京)
	監　事　監　査	平成 29 年 2 月 17 日	(東京)
編集委員会	平成 28 年度 第 1 回	平成 28 年 3 月 10 日	(横浜)
	第 2 回	6 月 29 日	(大阪)
研究推進委員会	平成 28 年度 第 1 回	平成 28 年 6 月 28 日	(東京)
広報委員会	平成 28 年度 第 1 回	平成 28 年 3 月 11 日	(横浜)
	第 2 回	6 月 29 日	(東京)
企画教育委員会	平成 28 年度 第 2 回	平成 28 年 6 月 27 日	(東京)
	平成 29 年度 第 1 回	平成 29 年 1 月 16 日	(東京)
次世代の会	平成 28 年度 第 1 回	平成 28 年 3 月 9 日	(横浜)
賞等選考委員会	平成 28 年度 第 1 回	平成 28 年 10 月 15 日	(東京)
年会学術企画委員会	平成 28 年度 第 2 回	平成 28 年 6 月 18 日	(東京)
江橋賞選考委員会	平成 28 年度 第 1 回	平成 28 年 10 月 28 日	(東京)
国際対応委員会	平成 28 年度 第 1 回	平成 28 年 9 月 2 日	(東京)
利益相反(COI)委員会	平成 28 年度 第 1 回	平成 28 年 11 月 1 日	(東京)
「事務局在り方」ワーキング	平成 28 年度 第 1 回	平成 28 年 8 月 2 日	(東京)
	第 2 回	11 月 22 日	(東京)

7．会員状況（平成 28 年 12 月 31 日現在）

会員数および異動状況（下段は前年度との差）

代議員 (正会員に含む)	名誉会員	永年会員	正会員		総数
			学術評議員	一般会員	
１４０	１１７	８０	１，２９０	３，１０９	４，５９６
＋５	＋８	－４	－３８	±０	－３４

新入会者数：463 名，退会者数：497 名（逝去者，会費未納除籍者含む）

平成 28 年度事業報告には，「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない．

Ⅲ．平成 28 年度決算報告

独立監査人の監査報告書

平成 29 年 2 月 17 日

公益社団法人　日 本 薬 理 学 会
　　理事長　赤池　昭紀　殿

中村公認会計士事務所
公認会計士　　中村　友理香　　㊞

＜財務諸表監査＞

私は，公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に準じ，公益社団法人日本薬理学会の平成 28 年 1 月 1 日から平成 28 年 12 月 31 日までの平成 28 年度の貸借対照表及び損益計算書（公益認定等ガイドラインⅠ－5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう.）並びにその附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査し，併せて，正味財産増減計算書内訳表(以下，これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という.）について監査を行った.

財務諸表に対する理事者の責任

理事者の責任は,我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある．これには，不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる.

監査人の責任

私の責任は，私が実施した監査に基づいて，独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある．私は，我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った．監査の基準は，私に財務諸表等に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために，監査計画を策定し，これに基づき監査を実施することを求めている.

監査においては，財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される．監査手続は，私の判断により，不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される．財務諸表監査の目的は，内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが，私は，リスク評価の実施に際して，状況に応じた適切な監査手続を立案するために，財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する．また，監査には，理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体として財務諸表等の表示を検討することが含まれる.

私は，意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している.

監査意見

私は，上記の財務諸表等が，我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して，当該財務諸表等に係る期間の財産，損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める.

＜財産目録に対する意見＞

私は，公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 23 条の規定に準じ，公益社団法人日本薬理学会の平成 28 年 12 月 31 日現在の平成 28 年度の財産目録（「貸借対照表科目」，「金額」及び「使用目的等」の欄に限る．以下同じ．）について監査を行った．

財産目録に対する理事者の責任

理事者の責任は，財産目録を，我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに，公益認定関係書類と整合して作成することにある．

監査人の責任

私の責任は，財産目録が，我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており，公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある．

財産目録に対する監査意見

私は，上記の財産目録が，我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており，公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める．

利害関係

公益社団法人日本薬理学会と私との間には，公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない．

以　上

監 査 報 告 書

公益社団法人 日 本 薬 理 学 会
理事長　赤 池 昭 紀 殿

平成 29 年 2 月 17 日

公益社団法人日 本 薬 理 学 会

監事　　馬嶋　正隆　㊞

監事　　三輪　聡一　㊞

私たちは，平成 28 年 1 月 1 日から平成 28 年 12 月 31 日までの会計年度における会計及び業務の監査を行い，次のとおり報告する．

１　監査の方法の概要

(1)　会計監査について，帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて，財務諸表並びに収支計算書の正確性を検討した．

(2)　業務監査について，理事会及びその他の会議に出席し，理事から業務の報告を聴取し，関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した．

２　監査意見

(1)　貸借対照表，正味財産増減計算書，財産目録及び収支計算書は，会計帳簿の記載金額と一致し，法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める．

(2)　事業報告書の内容は，真実であると認める．

(3)　理事の業務執行に関する不整の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な過失はないと認める．

貸借対照表

平成28年12月31日現在

（単位:円）

科　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　資産の部			
1. 流動資産			
現　　金	2,699,760	978,209	1,721,551
預 貯 金	36,099,382	24,357,131	11,742,251
未収入金	16,157,651	16,280,885	△ 123,234
前 払 金	2,168,851	4,252,148	△ 2,083,297
貯 蔵 品	3,147	4,585	△ 1,438
流動資産合計	57,128,791	45,872,958	11,255,833
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
薬理学基金	40,000,000	40,000,000	0
国際基金	3,790,132	4,353,628	△ 563,496
振興基金			
学術講演基金	28,158,776	31,716,390	△ 3,557,614
刊行基金	18,537,625	18,535,627	1,998
褒賞基金	20,551,147	22,810,905	△ 2,259,758
年会開催資産	0	450,000	△ 450,000
公開講座開催資産	1,000,000	1,100,018	△ 100,018
国際情報発信強化資産	1,838,883	1,708,753	130,130
特定資産合計	113,876,563	120,675,321	△ 6,798,758
(2) その他固定資産			
ソフトウェア	805,013	607,408	197,605
電話加入権	2	2	0
保 証 金	1,572,000	1,572,000	0
投資有価証券	20,059,347	20,094,043	△ 34,696
長期貸付金	959,897	693,342	266,555
その他固定資産合計	23,396,259	22,966,795	429,464
固定資産合計	137,272,822	143,642,116	△ 6,369,294
資 産 合 計	194,401,613	189,515,074	4,886,539
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
前 受 金	953,500	868,500	85,000
未 払 金	17,637,935	9,544,698	8,093,237
預 り 金	429,709	514,240	△ 84,531
流動負債合計	19,021,144	10,927,438	8,093,706
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負 債 合 計	19,021,144	10,927,438	8,093,706
Ⅲ 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
受取補助金	2,838,883	2,808,771	30,112
受取寄付金	0	450,000	△ 450,000
指定正味財産合計	2,838,883	3,258,771	△ 419,888
(うち特定資産への充当額)	(2,838,883)	(3,258,771)	(△419,888)
2. 一般正味財産	172,541,586	175,328,865	△ 2,787,279
(うち特定資産への充当額)	(111,037,680)	(117,416,550)	(△6,378,870)
正味財産合計	175,380,469	178,587,636	△ 3,207,167
負債及び正味財産合計	194,401,613	189,515,074	4,886,539

正味財産増減計算書

平成28年1月1日から平成28年12月31日まで　　(単位:円)

科　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1)経常収益			
① 特定資産運用益	38,556	63,809	△ 25,253
薬理学基金受取利息	30,212	30,200	12
国際基金受取利息	469	2,016	△ 1,547
振興基金受取利息	7,875	31,593	△ 23,718
② 受取会費	49,782,500	51,552,000	△ 1,769,500
一般会員会費	20,664,500	21,016,000	△ 351,500
学術評議員会費	19,068,000	19,556,000	△ 488,000
賛助会員会費	10,050,000	10,980,000	△ 930,000
③ 事業収益	84,379,101	95,751,210	△ 11,372,109
学術集会費収益	57,591,156	63,905,925	△ 6,314,769
購読料収益	917,930	998,390	△ 80,460
論文掲載料収益	16,206,961	20,322,875	△ 4,115,914
論文別刷料収益	3,862,934	2,423,406	1,439,528
広告掲載料収益	5,793,120	7,825,680	△ 2,032,560
予稿集売上等収益	7,000	274,934	△ 267,934
④ 受取補助金等	10,804,288	13,143,121	△ 2,338,833
学術集会補助金	1,734,400	3,035,300	△ 1,300,900
指定正味財産からの振替額	9,069,888	10,107,821	△ 1,037,933
⑤ 受取寄付金	15,622,000	15,073,887	548,113
学術集会賛助金	15,172,000	15,049,887	122,113
一般寄付金	0	24,000	△ 24,000
指定正味財産からの振替額	450,000	0	450,000
⑥ 雑 収 益	404,524	394,149	10,375
受取利息	54,524	63,981	△ 9,457
雑 収 益	350,000	330,168	19,832
経常収益計	161,030,969	175,978,176	△ 14,947,207
(2)経常費用			
① 事 業 費	145,512,612	142,245,239	3,267,373
給与手当	5,263,705	2,246,486	3,017,219
法定福利費	733,168	339,206	393,962
退職給付費用	0	406,545	△ 406,545
事務所借料	1,200,051	500,255	699,796
会 場 費	43,468,198	31,095,020	12,373,178
旅費・通信交通費	4,169,284	7,506,564	△ 3,337,280
印 刷 費	7,237,512	6,657,930	579,582
会 議 費	2,143,182	4,287,848	△ 2,144,666
謝金・その他	13,176,221	13,690,455	△ 514,234
懇親会費	6,670,720	11,265,563	△ 4,594,843
編集・刊行費	31,956,000	31,956,000	0
国際情報発信強化費	7,969,870	8,707,793	△ 737,923
学術事業協力費	1,347,700	452,900	894,800
副　賞	1,108,600	1,198,600	△ 90,000
消耗品費	654,922	764,419	△ 109,497
業務委託費	17,306,379	19,530,680	△ 2,224,301
租税公課	1,107,100	1,568,100	△ 461,000
減価償却費	0	70,875	△ 70,875

科　目	当年度	前年度	増　減
② 管 理 費	18,305,636	22,795,695	△ 4,490,059
給与手当	3,088,706	5,997,111	△ 2,908,405
法定福利費	488,780	1,017,622	△ 528,842
退職給付費用	0	1,219,637	△ 1,219,637
事務所借料	800,973	1,500,769	△ 699,796
旅費・通信交通費	3,956,587	2,629,899	1,326,688
印 刷 費	304,047	466,695	△ 162,648
会 議 費	710,666	514,609	196,057
リース料	33,566	33,566	0
消耗品費	1,094,463	664,301	430,162
支払手数料	809,426	748,683	60,743
慶弔費	477,294	254,091	223,203
臨時雇賃金	0	851,886	△ 851,886
業務委託費	5,766,750	5,345,824	420,926
租税公課	3,050	4,200	△ 1,150
減価償却費	342,395	317,520	24,875
選 挙 費	197,555	1,040,694	△ 843,139
雑　費	231,378	188,588	42,790
経常費用計	163,818,248	165,040,934	△ 1,222,686
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 2,787,279	10,937,242	△ 13,724,521
基本財産評価損益等			
特定資産評価損益等			
投資有価証券評価損益等			
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 2,787,279	10,937,242	△ 13,724,521
2. 経常外増減の部			
(1)経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2)経常外費用			
電話加入権減損損失	0	398,350	△ 398,350
経常外費用計	0	398,350	△ 398,350
当期経常外増減額	0	△ 398,350	398,350
当期一般正味財産増減額	△ 2,787,279	10,538,892	△ 13,326,171
一般正味財産期首残高	175,328,865	164,789,973	10,538,892
一般正味財産期末残高	172,541,586	175,328,865	△ 2,787,279
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
受取補助金	9,100,000	9,400,000	△ 300,000
受取寄付金	0	450,000	△ 450,000
特定資産受取利息	0	453	△ 453
一般正味財産への振替額	△ 9,519,888	△ 10,107,821	587,933
当期指定正味財産増減額	△ 419,888	△ 257,368	△ 162,520
指定正味財産期首残高	3,258,771	3,516,139	△ 257,368
指定正味財産期末残高	2,838,883	3,258,771	△ 419,888
Ⅲ 正味財産期末残高	175,380,469	178,587,636	△ 3,207,167

正味財産増減計算書内訳表

平成28年1月1日から平成28年12月31日まで

(単位:円)

	公益目的事業会計						収益事業等会計	法人会計	内部取引消去	合 計
	公1	公2	公3	公4	共 通	小 計				
	学術集会等開催	刊 行	褒 賞	連 携						
Ⅰ一般正味財産増減の部										
1. 経常増減の部										
(1)経常収益										
特定資産運用益						23,450		15,106		38,556
薬理学基金受取利息					15,106	15,106		15,106		30,212
国際基金受取利息				469		469				469
振興基金受取利息	3,418	1,998	2,459			7,875				7,875
受取会費						24,891,250		24,891,250		49,782,500
一般会員会費					10,332,250	10,332,250		10,332,250		20,664,500
学術評議員会費					9,534,000	9,534,000		9,534,000		19,068,000
賛助会員会費					5,025,000	5,025,000		5,025,000		10,050,000
事業収益						84,379,101				84,379,101
学術集会費収益	57,591,156					57,591,156				57,591,156
購読料収益		917,930				917,930				917,930
論文掲載料収益	1,989,000	14,217,961				16,206,961				16,206,961
論文別刷料収益		3,862,934				3,862,934				3,862,934
広告掲載料収益		5,793,120				5,793,120				5,793,120
予稿集売上等収益	7,000					7,000				7,000
受取補助金等						10,804,288				10,804,288
学術集会補助金	1,734,400					1,734,400				1,734,400
指定正味財産からの振替額	1,100,018	7,969,870				9,069,888				9,069,888
受取寄付金						15,622,000		0		15,622,000
学術集会賛助金	15,172,000					15,172,000				15,172,000
指定正味財産からの振替額	450,000					450,000				450,000
雑収益						28,518		376,006		404,524
受取利息		2,512			26,006	28,518		26,006		54,524
雑収益						0		350,000		350,000
経常収益計	78,046,992	32,766,325	2,459	469	24,932,362	135,748,607	0	25,282,362	0	161,030,969
(2)経常費用										
事業費										
給与手当	3,635,980	618,797	780,262	228,666		5,263,705				5,263,705
法定福利費	488,779	61,097	122,195	61,097		733,168				733,168
事務所借料	800,000	100,000	200,000	100,051		1,200,051				1,200,051
会場費	43,468,198					43,468,198				43,468,198
旅費・通信交通費	2,935,526	171,754	565,760	496,244		4,169,284				4,169,284
印刷費	7,237,512					7,237,512				7,237,512
会議費	1,880,136	50,489	144,836	67,721		2,143,182				2,143,182
謝金・その他	12,730,741		445,480			13,176,221				13,176,221
懇親会費	6,670,720					6,670,720				6,670,720
編集・刊行費		31,956,000				31,956,000				31,956,000
国際情報発信強化費		7,969,870				7,969,870				7,969,870
学術事業協力費				1,347,700		1,347,700				1,347,700
副 賞			1,108,600			1,108,600				1,108,600
消耗品費		654,922				654,922				654,922
業務委託費	13,394,722	3,911,657				17,306,379				17,306,379
租税公課	237,240	869,860				1,107,100				1,107,100
事業費計	93,479,554	46,364,446	3,367,133	2,301,479	0	145,512,612	0	0	0	145,512,612
管理費										
給与手当								3,088,706		3,088,706
法定福利費								488,780		488,780
事務所借料								800,973		800,973
旅費・通信交通費								3,956,587		3,956,587
印刷費								304,047		304,047
会議費								710,666		710,666
リース料								33,566		33,566
消耗品費								1,094,463		1,094,463
支払手数料								809,426		809,426
慶弔費								477,294		477,294
業務委託費								5,766,750		5,766,750
租税公課								3,050		3,050
減価償却費								342,395		342,395
選挙費								197,555		197,555
雑 費								231,378		231,378
管理費計								18,305,636		18,305,636
経常費用計	93,479,554	46,364,446	3,367,133	2,301,479	0	145,512,612	0	18,305,636	0	163,818,248
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 15,432,562	△ 13,598,121	△ 3,364,674	△ 2,301,010	24,932,362	△ 9,764,005	0	6,976,726	0	△ 2,787,279
基本財産評価損益等										
特定資産評価損益等										
投資有価証券評価損益等										
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 15,432,562	△ 13,598,121	△ 3,364,674	△ 2,301,010	24,932,362	△ 9,764,005	0	6,976,726	0	△ 2,787,279
2. 経常外増減の部										
(1)経常外収益										
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2)経常外費用										
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額										
当期一般正味財産増減額	△ 15,432,562	△ 13,598,121	△ 3,364,674	△ 2,301,010	24,932,362	△ 9,764,005	0	6,976,726	0	△ 2,787,279
一般正味財産期首残高						104,270,410	0	71,058,455	0	175,328,865
一般正味財産期末残高						94,506,405	0	78,035,181	0	172,541,586
Ⅱ 指定正味財産増減の部										
受取補助金	1,000,000	8,100,000				9,100,000	0	0	0	9,100,000
一般正味財産への振替額										
一般正味財産への振替額	△ 1,550,018	△ 7,969,870				△ 9,519,888	0	0	0	△ 9,519,888
当期指定正味財産増減額	△ 550,018	130,130				△ 419,888	0	0	0	△ 419,888
指定正味財産期首残高	1,550,018	1,708,753				3,258,771	0	0	0	3,258,771
指定正味財産期末残高	1,000,000	1,838,883				2,838,883	0	0	0	2,838,883
Ⅲ 正味財産期末残高						97,345,288		78,035,181	0	175,380,469

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券は，償却原価法（定額法）による．

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品は1冊を1円として評価している．

(3) 固定資産の減価償却の方法

定額法による．

(4) 外貨建資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は，期末日の直物為替相場により円貨に換算し，換算差額は損益として処理している．

(5) リース取引の処理方法

会計基準適用初年度開始前の所有権移転外ファイナンス・リース取引は,引き続き通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている．

(6) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は，税込方式によっている．

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は次のとおりである．

特定資産　（単位:円）

科　　目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
薬理学基金	40,000,000	0	0	40,000,000
国際基金	4,353,628	469	563,965	3,790,132
振興基金				
学術講演基金	31,716,390	3,418	3,561,032	28,158,776
刊行基金	18,535,627	1,998	0	18,537,625
褒賞基金	22,810,905	2,459	2,262,217	20,551,147
年会開催資産	450,000	0	450,000	0
公開講座開催資産	1,100,018	1,000,000	1,100,018	1,000,000
国際情報発信強化資産	1,708,753	8,100,000	7,969,870	1,838,883
合　　計	120,675,321	9,108,344	15,907,102	113,876,563

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は次のとおりである．

特定資産　（単位:円）

科　　目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
薬理学基金	40,000,000	0	(40,000,000)	－
国際基金	3,790,132	0	(3,790,132)	－
振興基金				
学術講演基金	28,158,776	0	(28,158,776)	－
刊行基金	18,537,625	0	(18,537,625)	－
褒賞基金	20,551,147	0	(20,551,147)	－
公開講座開催資産	1,000,000	(1,000,000)	0	－
国際情報発信強化資産	1,838,883	(1,838,883)	0	－
合　　計	113,876,563	(2,838,883)	(111,037,680)	0

4. 固定資産の取得価額，減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額，減価償却累計額及び当期末残高は，次のとおりである．

（単位:円）

科　　目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
ソフトウエア	2,127,600	1,322,587	805,013
合　　計	2,127,600	1,322,587	805,013

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額，時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額，時価及び評価損益は，次のとおりである．

（単位:円）

科　　目	帳簿価額	時　　価	評価損益
国　　債	40,059,347	40,346,738	287,391
合　　計	40,059,347	40,346,738	287,391

6. 補助金等の内訳並びに交付者，当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者，当期の増減額及び残高は，次のとおりである．

（単位:円）

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
国際情報発信強化補助金	日本学術振興会	1,708,753	8,100,000	7,969,870	1,838,883	指定正味財産
科学研究費公開講座補助金	日本学術振興会	1,100,018	1,000,000	1,100,018	1,000,000	指定正味財産
学会等開催助成（第89回年会）	(公財)東京生化学研究会	0	450,000	450,000	0	
海外学者招聘助成金（第89回年会）	(公財)内藤記念科学振興財団	0	600,000	600,000	0	
学術会議等開催支援（第67回北部会）	(公財)伊藤医薬学術交流財団	0	300,000	300,000	0	
学術会議等開催支援（第129回近畿部会）	広島県(広島県知事 湯﨑英彦)	0	122,400	122,400	0	
学術会議等開催支援（第129回近畿部会）	広島市(健康福祉局保健部保健医療課)	0	62,000	62,000	0	
ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝ開催助成金（第69回西南部会）	(公財)松山観光コンベンション協会	0	200,000	200,000	0	
合　　計		2,808,771	10,834,400	10,804,288	2,838,883	

7. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は，次のとおりである．

（単位:円）

内　容	金　額
経常収益への振替額	
目的達成による指定解除（受取補助金）	9,069,888
目的達成による指定解除（受取寄付金）	450,000

8. 資産除却債務関係

事務局の不動産賃貸借契約に基づき，オフィス退去時における現状回復に係る債務を有しているが，当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく，当面事務局を移転する予定もないことから，資産除却債務を合理的に見積もることができない．そのため，当該債務に見合う資産除却債務を計上していない．

附属明細書

1　基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は次のとおりである.

特定資産　　(単位:円)

科　　目	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
薬理学基金	投資有価証券・第118回利付国債	20,000,000	0	0	20,000,000
	定期預金(三菱東京UFJ・本郷)	20,000,000	0	0	20,000,000
国際基金	普通預金(三菱東京UFJ・本郷)	4,353,628	0	4,353,628	0
	ゆうちょ通常貯金		3,790,132		3,790,132
振興基金					
学術講演基金	投資有価証券・第341回利付国債	10,000,000	0	10,000,000	0
	定期預金(三菱東京UFJ・本郷)	13,340,000	0	0	13,340,000
	ゆうちょ定期貯金	0	13,000,000	0	13,000,000
	ゆうちょ通常貯金	8,376,390	0	6,557,614	1,818,776
刊行基金	定期預金(みずほ・本郷)	10,000,000	0	0	10,000,000
	普通預金(みずほ・本郷)	8,535,627	1,998	0	8,537,625
褒賞基金	投資有価証券・第341回利付国債	10,000,000	0	10,000,000	0
	ゆうちょ定期貯金	10,000,000	0	10,000,000	0
	ゆうちょ通常貯金	2,810,905	17,740,242	0	20,551,147
年会開催資産	普通預金(みずほ・本郷)	450,000	0	450,000	0
公開講座開催資産	普通預金(みずほ・本郷)	1,100,018		1,100,018	0
	普通預金(三菱東京UFJ・本郷)	0	1,000,000	0	1,000,000
国際情報発信強化資産	普通預金(三菱東京UFJ・本郷)	1,708,753	0	1,708,753	0
	普通預金(三菱東京UFJ・聖護院)		1,838,883	0	1,838,883
	特定資産計	120,675,321	37,371,255	44,170,013	113,876,563

財 産 目 録

平成28年12月31日現在

（単位:円）

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金 額
（流動資産）	現　　金	手元保管	運転資金として	2,699,760
	預　貯　金	普通預金・三菱東京UFJ銀行本郷支店	運転資金として	8,804,210
		普通預金・三菱東京UFJ銀行聖護院支店	運転資金として	6,261,123
		普通預金・みずほ銀行本郷支店	運転資金として	8,902,740
		ゆうちょ銀行通常貯金	運転資金として	2,443,205
		ゆうちょ銀行振替貯金	運転資金として	9,688,104
			＜現金・預貯金計＞	**38,799,142**
	未 収 入 金	収納代行会社	会費収納代行会社の年度末の残高である	504,000
		一般会員会費　(13名分)	規則で定められた会員の要支払会費額である	81,000
		学術評議員会費(68名分)	同　上	1,020,000
		部会補助金	学術集会事業の未収分である	200,000
		購 読 料	刊行事業の未収分である	872,400
		掲 載 料	同　上	9,844,361
		論文別刷料	同　上	2,743,880
		広告掲載料	同　上	859,680
		ﾊﾞｯｸﾅﾝﾊﾞｰ売上金	既刊雑誌の売上未収分である	32,330
			＜未収入金計＞	**16,157,651**
	前　払　金	第90回年会	年会開催事業への学会交付金である	2,100,000
		印刷費等	会費請求書封筒の印刷代等である	68,851
			＜前払金計＞	**2,168,851**
	貯　蔵　品	既刊誌(2015, 2016年)	既刊雑誌の在庫数である	3,147
			＜貯蔵品計＞	**3,147**
流動資産合計				**57,128,791**
（固定資産）	薬理学基金	投資有価証券第118回利付国債	運用益を公益目的事業と管理目的の財源として使用している	20,000,000
特定資産		定期預金・三菱東京UFJ銀行本郷支店		20,000,000
			＜薬理学基金計＞	**40,000,000**
	国際基金	ゆうちょ銀行通常貯金	海外の学会との連携事業の原資である	3,790,132
			＜国際基金計＞	**3,790,132**
	振興基金			
	学術講演基金	定期預金・三菱東京UFJ銀行本郷支店	科研費補助金を受けないで開催する市民公開講座，及び新薬理学セミナー開催事業等の原資である	13,340,000
		ゆうちょ銀行定期貯金		13,000,000
		ゆうちょ銀行通常貯金		1,818,776
			＜学術講演基金計＞	**28,158,776**
	刊行基金	定期預金・みずほ銀行本郷支店	刊行事業，薬理学に関する研究及び調査事業の原資である	10,000,000
		普通預金・みずほ銀行本郷支店		8,537,625
			＜刊行基金計＞	**18,537,625**
	褒賞基金	ゆうちょ銀行通常貯金	研究業績を表彰する事業の原資である	20,551,147
			＜褒賞基金計＞	**20,551,147**
	公開講座開催資産	普通預金・三菱東京UFJ銀行本郷支店	科研費の補助金である	1,000,000
			＜公開講座開催資産計＞	**1,000,000**
	国際情報発信強化資産	普通預金・三菱東京UFJ銀行聖護院支店	科研費の補助金である	1,838,883
			＜国際情報発信強化資産計＞	**1,838,883**
			＜特定資産合計＞	**113,876,563**

その他固定資産	ソフトウェア	会員管理システム	管理目的の資産である	805,013
	電話加入権	電話回線 2台	公益目的保有財産であり，公益目的事業に使用している	2
	保証金	㈱学会センタービル	(共用財産)	1,572,000
			うち公益目的保有財産25%	393,000
			うち管理目的として使用する財産75%	1,179,000
	投資有価証券	第113回利付国債	運用益を公益目的事業と管理目的の財源として使用している	20,059,347
	長期貸付金	IUPHAR2018	日本臨床薬理学会との連携機構に貸し付けたIUPHAR2018準備費用である	959,897
			＜その他固定資産計＞	**23,396,259**
固定資産合計				**137,272,822**
資産合計				**194,401,613**
(流動負債)	前受金	2017, 2018年一般会員会費(27名分)	公益目的事業及び管理目的の業務に使用する次年度及び次々年度会費である.	116,500
		2017年学術評議員会費(4名分)		60,000
		2017年部会抄録掲載料(259題分)	次年度刊行雑誌の抄録掲載料及び購読料である	777,000
			＜前受金計＞	**953,500**
	未払金	福田商店代理店委託費	学会誌の広告代理店委託費である	171,936
		社会保険料	事業主負担分	236,866
		業務委託費等	刊行事業の委託先である中西印刷㈱の業務委託費及び会計監査費用等である	16,782,633
		消費税	公益目的事業の消費税である	446,500
			＜未払金計＞	**17,637,935**
	預り金	職員他源泉所得税	職員給与と学術集会開催事業の謝金の源泉所得税である	288,274
		職員社会保険料等	職員から預った社会保険料及び住民税である	135,435
		参加登録費		6,000
			＜預り金計＞	**429,709**
流動負債合計				**19,021,144**
(固定負債)			**＜固定負債合計＞**	**0**
固定負債合計				**0**
負債合計				**19,021,144**
正味財産				**175,380,469**

Ⅳ. 平成 29 年度事業計画

第 18 回国際薬理学臨床薬理学会議（WCP2018）の京都開催を来年の 7 月に控え，組織委員会と協力して国際会議に向けた準備を進めて行くとともに，これを契機として薬理学会の更なる活性化を図ることを本年度の重点目標とします．具体的には，日本臨床薬理学会をはじめとした国内学会および製薬関連企業との協力を強化していきます．さらに，国際薬理学連合（IUPHAR）およびアジア・オセアニア各国，米国，英国の薬理学会との連携について，強化を進めて参ります．このような国際連携強化の一環として特別委員会に国際対応委員会が設置されており，本委員会を軸に理事会，各委員会が一致協力して，WCP2018 の成功と学会国際化の推進に向けた活動を進めて参ります．学会機関誌については，編集委員会ならびに広報委員会を中心に更なる質の向上に努めます．特に，国際情報発信強化補助金を用いた Journal of Pharmacological Sciences（JPS）の国際誌レベルアップを一層進めて参ります．さらに，次世代の会の活動の充実，薬理学エデュケーター制度の導入などの検討を行い，若手研究者も含めた学会活動の促進に取り組んでいきます．財政状況につきましては，会費収入の漸減傾向が続いていますが，前期理事会での出版事業の外部委託などによる経費削減により，収支バランスが好転してきました．これを機会に，会員管理システムのリニューアルを行い，それと連動した諸種システムなどの一本化を図り，会員の方の手続きの利便性の向上を目指します．平成 31 年度までの継続が決定されている事務局体制につきましても，3 月の総会を目処に，平成 32 年度以降の事務局体制に関する方針を決定し，将来も安定した学会運営体制の構築を目指します．

本会の更なる発展を目指すため，会員の皆様のご理解と一層のご支援ご協力をお願いいたします．

理事長　赤池　昭紀

1　薬理学研究の進展及び薬理学研究者育成のための学術集会及び講演会等の開催事業（公益目的事業 1）

(1) 年会の開催

第 90 回年会は，新しい領域に挑み続け，それらを受け入れ進化している薬理学研究を，国内外に広く示して行きたいと考え，『出島に学ぶーTherapeutic Innovation from Dejimaー』をテーマとする．性別や国籍，年齢などにとらわれず，次世代の薬理学を担う多くの研究者が溶け込みやすく，自身のホームグランドと感じられる年会となるよう全力で取り組む．

プレナリーレクチャーは森 和俊氏（京都大学大学院理学研究科・教授）が「小胞体の機能と制御のダイナミクス」を講演する．内外の研究者 9 名がそれぞれ特別講演を行い，特別招待講演は理化学研究所の高橋 政代氏とミシガン大学の Daniel Goldman 教授である．JPS と ASCEPT の講師交換プログラムによる講演 1 題，教育セミナーは 2 題である．年会企画シンポジウム 7 題，年会企画スポンサードシンポジウム，年会特別企画シンポジウム，年会企画ナノシンポジウム，JPS サテライトシンポジウム，次世代の会シンポジウム各 1 題，企業企画シンポジウムは 2 題である．日本生理学会，日本臨床薬理学会，日本医学会連合の各団体と共催シンポジウムを行う他にダイバーシティ推進シンポジウム，レギュラトリーサイエンスシンポジウムをそれぞれ計画している．

・第 90 回 日本薬理学会年会　　年会長：植田 弘師(長崎大学･院･医歯薬)
平成 29 年 3 月 15 日～17 日　長崎ブリックホール，長崎新聞文化ホール

(2) 地方部会の開催

6 回の地方部会を開催する．多彩な企画を予定している．

・第 131 回 日本薬理学会近畿部会　　部会長：戸苅　彰史（愛知学院大学･歯）
平成 29 年 6 月 30 日　ウインクあいち

・第 136 回 日本薬理学会関東部会　　部会長：古川　哲史（東京医科歯科大学難治疾患研）
平成 29 年 7 月 8 日　東京医科歯科大学鈴木記念講堂

・第 68 回 日本薬理学会北部会　　部会長：石井　邦明（山形大学･医）
平成 29 年 9 月 15 日　山形テルサ

・第 137 回 日本薬理学会関東部会　　部会長：鈴木　秀典（日本医科大学･医）
平成 29 年 10 月 28 日　日本医科大学千駄木地区キャンパス

・第 70 回 日本薬理学会西南部会　　部会長：宮田　篤郎（鹿児島大学･院･医歯学）
平成 29 年 11 月 18 日　かごしま県民交流センター

・第 132 回 日本薬理学会近畿部会　　部会長：金井　好克（大阪大学･院･医）
平成 29 年 11 月 24 日　千里ライフサイエンスセンター

(3) 市民公開講座の開催

科学的で正確な薬理学的知識に基づいて，薬物に関する正しい知識を国民に対して広めること及び薬理学の社会的重要性を国民に広く知ってもらうための啓発活動の一環として年会,地方部会と連動して4回の市民公開講座を開催する予定である.

・公開講座(第90回年会)　平成29年3月17日，長崎ブリックホール（長崎市）

テーマ：『依存性薬物の乱用とその実態－教育と行政の取り組み－』

講　師：舩田 正彦（国立精神･神経医療研究センター）

・公開講座(第68回北部会)　平成29年9月16日，山形テルサ（山形市）

テーマ：『感染症に薬が効かなくなるのは何故か？』

講　師：賀来 満夫（東北大学･院･医）

地方部会に合わせてその他に2回開催の予定

(4) 新薬理学セミナー2017は開催予定無し.

2　薬理学に関する学理及び応用の研究についての知識の普及を目的とし，学会誌等を刊行する事業（公益目的事業2）

(1) Journal of Pharmacological Sciencesを全面電子体のオープンアクセス誌として刊行する.

・2017年刊行予定：133巻1～4号，134巻1～4号，135巻1～4号，Supplement（The 90th Annual Meeting）

(2) 日本薬理学雑誌（くすりとからだ／ファーマコロジカ）の刊行

・2017年刊行予定：149巻1～6号，150巻1～6号　計12冊

(3) 会員相互の情報交換のために8月に会員名簿を発行する.

3　優れた業績をあげた研究者の表彰及び研究の一層の飛躍を期待した研究奨励のために，各賞を設置し，研究者と研究業績を表彰する事業（公益目的事業3）

(1) 江橋節郎賞

日本薬理学会名誉会員故江橋節郎先生の生命科学への貢献を末永く顕彰するため，江橋節郎賞を創設し，独創的，飛躍的な業績をあげ，薬理学の進歩に大きく貢献した研究者に授与しているが，薬理学の振興という本賞創設の趣旨に則り，第10回より，これからますます発展が期待される若手研究者も受賞対象とすることを決定した.

・第10回江橋節郎賞受賞者の受賞講演は，第90回年会二日目の平成29年3月16日に行われる.

池谷　裕二（東京大学大学院薬学系研究科）

『脳回路機能の可塑性と病態に関する研究』

・第11回江橋節郎賞は5月末日までに募集の公告をし，推薦の締切は8月末日，江橋節郎賞選考委員会の選考を経て理事会で決定する.

(2) 学術奨励賞

薬理学の進歩に寄与する顕著な研究を発表し，将来発展の期待される研究者に学術奨励賞を授与する.

・第32回学術奨励賞受賞者3名の受賞講演は，第90回年会二日目の平成29年3月16日に行われる.

金丸　和典（東京大学大学院医学系研究科細胞分子薬理学講座・助教）

『カルシウムイメージングで切り拓くアストロサイト機能』

佐々木拓哉（東京大学大学院薬学系研究科薬品作用学教室・助教）

『脳細胞ネットワークの機能動態とその破綻機構の解明』

塩田　倫史（岐阜薬科大学生体機能解析学大講座分子生物学研究室・准教授）

『ドパミンD_2 受容体を介した細胞内シグナル伝達機構の解明』

・第33回学術奨励賞は5月末日までに募集の公告をし，推薦の締切は8月末日，賞等選考委員会の選考を経た3件以内の候補者について理事会が決定する.

(3) JPS優秀論文賞

過去3年間にJPSに掲載された論文の中で引用回数の多い順に毎年約10編の中から特に優れたものを選出し,その著者にJPS優秀論文賞を授与する.

・第21回JPS優秀論文賞受賞2編の授与式は第90回年会二日目の平成29年3月16日に行われる.

・第22回JPS優秀論文賞（本賞授賞の趣旨に則り）3編以内を決定する.

(4) 年会優秀発表賞

年会学術集会への優れた発表を促し，学問的情報発信の場としての役割を高めるために第 90 回年会で一般演題の中から優秀な発表に対して，10～20 件の年会優秀発表賞を授与する．

(5) 優秀査読者賞

Journal of Pharmacological Sciences の査読者の質を向上させ，掲載論文の国際的価値を高めることに資する目的で 5 名以内に JPS 優秀査読者賞を授与する．

4　薬理学及びわが国学術文化の進展・発展への寄与を目的とした，内外の関連学術団体との連携及び協力事業（公益目的事業 4）

(1) 日本学術会議との連携

日本学術会議協力学術研究団体の一員である本会は，日本学術会議国際対応分科会の活動として国際連携を推進する．

(2) 生物科学学会連合との連携

加盟団体と情報を共有して「生物科学」の健全な発展に協力するために，定例会議に出席する．

(3) 国内の関連学術団体と連携して第 90 回年会で共催シンポジウムを開催する．

・日本医学会連合との共催シンポジウム　平成 29 年 3 月 16 日（第 90 回年会二日目），長崎新聞文化ホール
「ミトコンドリア創薬ー治療法の無い時代からの転換点ー」

・日本臨床薬理学会との共催シンポジウム　平成 29 年 3 月 16 日（第 90 回年会二日目），長崎新聞文化ホール
「糖尿病の薬理/臨床薬理：新たな血糖調節メカニズムの解明と Precision Medicine へのロードマップ」

・日本生理学会との共催シンポジウム　平成 29 年 3 月 16 日（第 90 回年会二日目），長崎新聞文化ホール
「痛み，痒み，しびれなどの感覚受容の分子機構に関する最先端研究」

(4) IUPHAR との連携及び国際薬理・臨床薬理大会（WorldPharma）

WCP2018 京都大会に向けて WCP2018 組織委員会の活動を本格化する．

(5) 発展途上国等の薬理学教育推進への協力について

発展途上国等の薬理学教育を推進する IUPHAR Education Project への援助を年間 1 万ドル，3 年間の期限付きで行う．第 1 回は平成 28 年に既に送金済みで，平成 29 年，平成 30 年にも同額の援助を行う．

5　その他

1　会　員

・平成 28 年度末の会員数は平成 27 年度末の会員数 4,630 名から減少する見込みである．シニア割引制度を設け退職による退会者を減少させること，海外からの入会申請も Web 対応とし，会員数維持に向けた取り組みを続けている．

・新しい会員管理システムの構築により，学術集会参加登録と会員情報を連動させて利便性の向上に努める．これまで郵送中心であった各種申請や賞への応募等も規則との整合性を保ちながら電子申請に移行を予定．

2　業務執行体制の整備と強化

・代表理事 1 名，業務執行理事 3 名による執行体制で常務理事会を構成し，次期理事長を加え様々な課題に取り組んでいる．

3　社会に向けて

・公開講座を開催し，科学的で正確な薬理学的知識に基づいて，薬物に関する正しい知識を国民に対して広めること及び薬理学の社会的重要性を国民に広く知ってもらうための啓発活動を継続する．

・倫理委員会規定を制定し，科学者の行動規範に反する不正行為の防止に取り組んでいる．

4　事務局体制について

・財務シミュレーションにより独自の学会事務局も維持可能との財政的裏付けが示されたことを受けて，財務状況の見直しを定期的に行うことを条件に 2019 年度以降も事務局を存続させる方向で整備を進める．
平成 29 年 1 月より，会員管理業務は学会事務局内で行う．

Ⅴ.平成29年度収支予算

平成29年度収支予算

平成29年1月1日から平成29年12月31日まで

（単位:円）

	29年度予算額	28年度予算額	増　減	備　考
Ⅰ. 一般正味財産増減の部				
1.経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 特定資産運用益	40,000	90,000	△ 50,000	
基金運用益	40,000	90,000	△ 50,000	
② 受取会費	50,100,000	50,980,000	△ 880,000	
1 一般会員会費	20,800,000	20,800,000	0	
2 学術評議員会費	19,280,000	19,500,000	△ 220,000	
3 賛助会員会費	10,020,000	10,680,000	△ 660,000	
③ 事業収益	75,475,800	93,364,800	△ 17,889,000	
1 学術集会費収益	49,725,000	63,064,800	△ 13,339,800	
参加登録費	16,350,000	24,710,000	△ 8,360,000	
器械展示料・予稿集広告料	16,578,000	21,088,800	△ 4,510,800	
懇親会費	5,525,000	5,950,000	△ 425,000	
ランチョンセミナー	11,272,000	11,316,000	△ 44,000	
2 購読料	881,600	1,100,000	△ 218,400	
3 論文掲載料	16,269,200	19,700,000	△ 3,430,800	
4 論文別刷料	2,900,000	1,500,000	1,400,000	
5 広告掲載料	5,700,000	8,000,000	△ 2,300,000	
④ 受取補助金等	13,270,000	14,034,405	△ 764,405	
1 指定正味財産からの振替額	9,000,000	9,684,405	△ 684,405	
2 学術集会補助金	4,270,000	4,350,000	△ 80,000	
⑤ 受取寄付金	13,520,000	15,600,000	△ 2,080,000	
学術集会賛助金	13,520,000	15,600,000	△ 2,080,000	
⑥ 雑 収 益	410,000	435,000	△ 25,000	
受取利息等	410,000	435,000	△ 25,000	
経常収益計	**152,815,800**	**174,504,205**	**△ 21,688,405**	
(2) 経常費用				
① 事 業 費	135,116,811	150,971,756	△ 15,854,945	
事務所借料	1,400,051	1,200,051	200,000	
給与手当	5,777,500	4,942,500	835,000	
法定福利費	1,190,000	750,000	440,000	
会 場 費	33,600,000	42,637,800	△ 9,037,800	
旅費・通信交通費	5,965,100	6,430,000	△ 464,900	
印 刷 費	10,400,200	12,410,000	△ 2,009,800	
会 議 費	3,102,800	2,630,000	472,800	
謝金・その他	10,255,160	14,142,000	△ 3,886,840	
懇親会費	5,900,000	6,550,000	△ 650,000	
編集刊行費	31,956,000	33,000,000	△ 1,044,000	
国際情報発信強化費	8,000,000	8,584,405	△ 584,405	
学術事業協力費	1,350,000	430,000	920,000	
副　賞	1,150,000	1,750,000	△ 600,000	
消耗品費	700,000	0	700,000	
業務委託費	12,500,000	14,615,000	△ 2,115,000	
減価償却費	360,000	0	360,000	
租税公課	1,510,000	900,000	610,000	

（単位:円）

	29年度予算額	28年度予算額	増 減	備 考
② 管理費	15,727,473	18,012,473	△ 2,285,000	
事務所借料	600,973	800,973	△ 200,000	
給料手当	4,722,500	2,657,500	2,065,000	
法定福利費	510,000	500,000	10,000	
旅費･通信交通費	2,800,000	3,000,000	△ 200,000	
印 刷 費	500,000	600,000	△ 100,000	
会 議 費	500,000	700,000	△ 200,000	
リース料	34,000	34,000	0	
消耗品費	1,000,000	900,000	100,000	
支払手数料	800,000	900,000	△ 100,000	
臨時雇賃金	1,000,000	1,000,000	0	
慶 弔 費	500,000	400,000	100,000	
業務委託費	2,000,000	5,400,000	△ 3,400,000	
租税公課	20,000	20,000	0	
減価償却費	540,000	400,000	140,000	
選 挙 費	0	500,000	△ 500,000	
雑 費	200,000	200,000	0	
経常費用計	**150,844,284**	**168,984,229**	**△ 18,139,945**	
評価損益等調整前当期経常増減額	**1,971,516**	**5,519,976**	**△ 3,548,460**	
基本財産評価損益等				
特定資産評価損益等				
投資有価証券評価損益等				
評価損益等計				
当期経常増減額	1,971,516	5,519,976	△ 3,548,460	
2. 経常外増減の部				
(1)経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	
(2)経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	1,971,516	5,519,976	△ 3,548,460	
一般正味財産期首残高	158,838,351	153,318,375	5,519,976	
一般正味財産期末残高	**160,809,867**	**158,838,351**	**1,971,516**	
Ⅱ 指定正味財産増減の部			0	
① 受取補助金等				
受取補助金等	7,400,000	9,300,000	△ 1,900,000	
②一般正味財産への振替額				
一般正味財産への振替額	△ 9,000,000	△ 9,684,405	684,405	
当期指定正味財産増減額	△ 1,600,000	△ 384,405	△ 1,215,595	
指定正味財産期首残高	3,315,595	3,700,000	△ 384,405	
指定正味財産期末残高	**1,715,595**	**3,315,595**	**△ 1,600,000**	
Ⅲ 正味財産期末残高	**162,525,462**	**162,153,946**	**371,516**	

平成29年度収支予算書

平成29年1月1日から平成29年12月31日まで

(単位:円)

	公益目的事業会計(内訳表)						法人会計	内部取引消去	合 計
	公1 学術集会等開催	公2 刊 行	公3 褒 賞	公4 連 携	共通	小計			
Ⅰ一般正味財産増減の部									
1.経常増減の部									
(1)経常収益									
① 特定資産運用益	**0**	**0**	**0**	**0**	**20,000**	**20,000**	**20,000**		**40,000**
基金受取利息					20,000	20,000	20,000		40,000
② 受取会費	**0**	**0**	**0**	**0**	**25,050,000**	**25,050,000**	**25,050,000**		**50,100,000**
1 一般会員会費					10,400,000	10,400,000	10,400,000		20,800,000
2 学術評議員会費					9,640,000	9,640,000	9,640,000		19,280,000
3 賛助会員会費					5,010,000	5,010,000	5,010,000		10,020,000
③ 事業収益	**50,784,200**	**24,691,600**	**0**	**0**	**0**	**75,475,800**	**0**		**75,475,800**
1 学術集会費収益	49,725,000	0	0	0	0	49,725,000	0		49,725,000
参加登録費	16,350,000					16,350,000	0		16,350,000
器械展示料 予稿集広告料	16,578,000					16,578,000	0		16,578,000
懇親会費	5,525,000					5,525,000	0		5,525,000
ランチョンセミナー	11,272,000					11,272,000	0		11,272,000
2 購読料	0	881,600	0	0	0	881,600	0		881,600
購読料		861,600				861,600	0		861,600
バックナンバー売上金		20,000				20,000	0		20,000
3 論文掲載料	1,059,200	15,210,000	0	0	0	16,269,200	0		16,269,200
和文誌掲載料		3,500,000				3,500,000	0		3,500,000
英文誌掲載料		10,500,000				10,500,000	0		10,500,000
抄録掲載料	1,059,200	1,210,000				2,269,200	0		2,269,200
4 論文別刷料	0	2,900,000	0	0	0	2,900,000	0		2,900,000
別刷料		2,600,000				2,600,000	0		2,600,000
著作権等使用料		300,000				300,000	0		300,000
5 広告掲載料	0	5,700,000	0	0	0	5,700,000	0		5,700,000
広告掲載料		5,700,000				5,700,000	0		5,700,000
④ 受取補助金等	**5,270,000**	**8,000,000**	**0**	**0**	**0**	**13,270,000**	**0**		**13,270,000**
1 指定正味財産からの振替額	1,000,000	8,000,000				9,000,000	0		9,000,000
2 学術集会補助金	4,270,000					4,270,000	0		4,270,000
⑤ 受取寄付金	**13,520,000**					**13,520,000**	**0**		**13,520,000**
学術集会賛助金	13,520,000					13,520,000	0		13,520,000
⑥ 雑収益	**0**	**0**	**0**	**0**	**30,000**	**30,000**	**380,000**		**410,000**
受取利息等					30,000	30,000	30,000		60,000
雑収益							350,000		350,000
経常収益計	**69,574,200**	**32,691,600**	**0**	**0**	**25,100,000**	**127,365,800**	**25,450,000**		**152,815,800**
(2)経常費用						0			
① 事業費	**83,093,260**	**43,871,000**	**3,430,000**	**2,662,551**	**2,060,000**	**135,116,811**			**135,116,811**
1 事務所借料	900,000	200,000	200,000	100,051		1,400,051			1,400,051
2 給料手当	3,955,000	835,000	760,000	227,500		5,777,500			5,777,500
3 法定福利費	765,000	170,000	170,000	85,000		1,190,000			1,190,000
4 会場費	33,600,000					33,600,000			33,600,000
5 旅費・通信交通費	3,165,100		500,000	800,000	1,500,000	5,965,100			5,965,100
6 印刷費	10,400,200					10,400,200			10,400,200
7 会議費	2,852,800		150,000	100,000		3,102,800			3,102,800
8 謝金・その他	9,755,160		500,000			10,255,160			10,255,160
9 懇親会費	5,900,000					5,900,000			5,900,000
10 編集・刊行費		31,956,000				31,956,000			31,956,000

（単位:円）

	公益目的事業会計(内訳表)						法人会計	内部取引消去	合　計
	公1 学術集会等開催	公2 刊　行	公3 褒　賞	公4 連　携	共通	小計			
11 国際情報発信強化費		8,000,000				8,000,000			8,000,000
12 学術事業協力費				1,350,000		1,350,000			1,350,000
13 副　賞			1,150,000			1,150,000			1,150,000
14 消耗品費		700,000				700,000			700,000
15 業務委託費	11,400,000	1,100,000				12,500,000			12,500,000
16 減価償却費					360,000	360,000			360,000
17 租税公課	400,000	910,000			200,000	1,510,000			1,510,000
② 管理費							**15,727,473**		**15,727,473**
1 事務所借料							600,973		600,973
2 給料手当							4,722,500		4,722,500
3 法定福利費							510,000		510,000
4 旅費･通信交通費							2,800,000		2,800,000
5 印刷費							500,000		500,000
6 会議費							500,000		500,000
7 リース料							34,000		34,000
8 消耗品費							1,000,000		1,000,000
9 支払手数料							800,000		800,000
10 臨時雇賃金							1,000,000		1,000,000
11 慶弔費							500,000		500,000
12 業務委託費							2,000,000		2,000,000
13 租税公課							20,000		20,000
14 減価償却費							540,000		540,000
15 雑　費							200,000		200,000
経常費用計	**83,093,260**	**43,871,000**	**3,430,000**	**2,662,551**	**2,060,000**	**135,116,811**	**15,727,473**		**150,844,284**
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 13,519,060	△ 11,179,400	△ 3,430,000	△ 2,662,551	23,040,000	△ 7,751,011	9,722,527		1,971,516
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0		
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0		
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0	0	0		
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0		
当期経常増減額	**△ 13,519,060**	**△ 11,179,400**	**△ 3,430,000**	**△ 2,662,551**	**23,040,000**	**△ 7,751,011**	**9,722,527**		**1,971,516**
2.　経常外増減の部									
(1)経常外収益									
中科目別記載									
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0		0
(2)経常外費用									
中科目別記載									
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0		0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0		0
他会計振替額									0
当期一般正味財産増減額	△ 13,519,060	△ 11,179,400	△ 3,430,000	△ 2,662,551	23,040,000	△ 7,751,011	9,722,527		1,971,516
一般正味財産期首残高					111,719,622	111,719,622	47,118,729		158,838,351
一般正味財産期末残高	△ 13,519,060	△ 11,179,400	△ 3,430,000	△ 2,662,551	134,759,622	103,968,611	56,841,256		160,809,867
Ⅱ 指定正味財産増減の部									
受取補助金		7,400,000				7,400,000	0		7,400,000
一般正味財産への振替額	△ 1,000,000	△ 8,000,000				△ 9,000,000	0		△ 9,000,000
当期指定正味財産増減額	△ 1,000,000	△ 600,000				△ 1,600,000	0		△ 1,600,000
指定正味財産期首残高	1,300,000	2,015,595				3,315,595	0		3,315,595
指定正味財産期末残高	300,000	1,415,595				1,715,595	0		1,715,595
Ⅲ 正味財産期末残高	**△ 13,219,060**	**△ 9,763,805**	**△ 3,430,000**	**△ 2,662,551**	**134,759,622**	**105,684,206**	**56,841,256**		**162,525,462**

Ⅵ. 部会選出新常置委員会委員一覧

平成 30，31 年度

部会選出新常置委員一覧

（委員は五十音順，次点者は得票順）

北部会	関東部会	近畿部会	西南部会
石井　邦明	赤羽　悟美	大野　行弘	岩崎　克典
谷村　明彦	天野　　託	大矢　　進	笹栗　俊之
新田　淳美	安西　尚彦	金子　周司	津田　　誠
服部　裕一	池谷　裕二	高井　真司	中西　　博
谷内　一彦	石川　智久	土屋浩一郎	宮田　篤郎
吉岡　充弘	石毛久美子	冨田　修平	柳田　俊彦
	木内　祐二	西堀　正洋	
	五嶋　良郎	西山　　成	
	小林　真之	橋本　　均	
	武田　弘志	原　　英彰	
	辻　　稔	古屋敷智之	
	成田　　年	吉栖　正典	
次点者	次点者	次点者	次点者
今井由美子	関野　祐子	金井　好克	香月　博志
若森　　実	三澤日出巳	川畑　篤史	筒井　正人
守屋　孝洋	伊藤　芳久	稲垣　直樹	岩本　隆宏
平　　英一	上園　保仁	田熊　一敞	甲斐　広文
	亀井　淳三	徳山　尚吾	
	黒川　洵子	山田　清文	
	茶木　茂之	小澤光一郎	
	田中　　光	矢部　千尋	

Ⅶ. 規則の変更

定款施行細則

現　行	変　更
第 10 条　学術評議員会選出理事の定数は，北部会 2 名，関東部会 5 名，近畿部会 5 名，西南部会 2 名とする．	第 10 条　学術評議員会選出理事の定数は，北部会 2 名，関東部会 5 名，近畿部会 5 名，西南部会 2 名とする． 2　学術評議員会選出理事が任期中に他部会に転出したときは，転出後の部会で学術評議員としての資格を有する．ただし，部会を転出した後も，選出された部会の理事として職務を行う． 附　則　本細則は平成 28 年 12 月 16 日より施行する．

名誉会員推薦規定

現　行	変　更
第 2 条　名誉会員として推薦することができる者は，次の各号のいずれかに該当する者とする． (1) 本会の正会員として 20 年以上在籍し，年齢 65 才以上であり，かつ次の事項のいずれかに該当する者． a) 薬理学の研究分野において特に学術上の功績が大である者 b) 薬理学及び本会の発展に功績が顕著である者	(1) 本会の正会員として 20 年以上在籍し，年齢 65 才以上の，役員または常置委員在任中ではない者で，かつ次の事項のいずれかに該当する者． a) 薬理学の研究分野において特に学術上の功績が大である者 b) 薬理学及び本会の発展に功績が顕著である者 附　則　本規定は，平成 29 年 3 月 14 日より施行する．

役員等選挙実施規定

現　行	変　更
（推薦権有資格者） 第 7 条　第5条に基づき役員候補者被選挙権者を推薦できる者は，推薦する時点において当該部会に所属する学術評議員とする．	**（推薦権有資格者）** 第 7 条　第5条に基づき役員候補者被選挙権者を推薦できる者は，推薦投票公示日の前月 1 日において当該部会に所属する学術評議員とする． 附　則　本規定は平成 28 年 7 月 8 日より施行する．

代議員選挙規定

現　行	変　更
（投票有権者） 第6条　代議員選挙の投票有権者は，選挙を公示する月に当該選挙区に所属する正会員とする．ただし，理事は，投票権を行使できない．	**（投票有権者）** 第6条　代議員選挙の投票有権者は，選挙公示日の前月 1 日において当該選挙区に所属する正会員とする．ただし，理事は，投票権を行使できない． 附　則　本規定は平成 28 年 7 月 8 日より施行する．

江橋節郎賞規定

現　行	変　更
（対　象） 第 2 条　江橋賞は，本会会員で独創的，飛躍的な業績をあげ，薬理学の進歩に大きく貢献した研究者に授与する．	**（対　象）** 第 2 条　江橋賞は，本会会員で独創的，飛躍的な業績をあげ，今後，薬理学の発展にますます貢献することが期待される研究者に授与する． 附　則　本規定は平成 28 年 3 月 8 日より施行する．

年会会計運用規則

現　行	変更及び別表追加
第8条 3　講師への支払いは，以下の各号のとおりとする． (1) 謝金は原則として所得税の源泉徴収の対象であるため，法人事務局に必要な書類を請求し手続を行わなければならない．外国人の非課税の書類は所轄の税務署等から入手しなければならない． (2) 講師謝金は，支払い額などの基準を作成する． (3) 講師への旅費等の支給（謝金を除く）は，交通費，宿泊費，日当等の必要相当額の範囲とし，個人の所得とみなされないように，それら支出額の根拠を明確にする．	(2) 講師謝金の支払い額などの基準は別表のとおりとする． (3) 講師への旅費等の支給（謝金を除く）は，薬理学国際基金運営規定または科学研究費補助金による旅費等の支給規程に準ずる． 別表（講師謝金の基準） いずれも下表の金額を基準とし，本会会員には原則支給しない． 1) ノーベル賞及び同等の賞の受賞者：300,000円（税抜額） 2) 1) 以外の講演者：100,000円（税抜額） 附　則　本規定は平成28年7月8日より施行する．

慶弔に関する取扱規則

現　行	変更及び別表追加
(慶　事) 第2条　本会は，会員の慶事に対し祝意を表することができる．	第2条　本会は，会員の慶事に対し祝意を表することができる．慶事の取扱い基準は別表に定める． 別表（第2条関係） ノーベル賞受賞者：祝電 ○，日薬理誌掲載 ○ 学士院賞受賞者：祝電 ○，日薬理誌掲載 ○ 叙勲受章者：祝電 ○，日薬理誌掲載 × 附　則　本規則は平成28年7月8日より施行する．

・各賞賞金額（副賞）を各規定の附則に以下のとおり追加する．

規　則	追　加
江橋節郎賞規定	附　則　第3条の副賞の額は50万円とする．
学術奨励賞規定	附　則　第3条の副賞の額は10万円/件とする．
Journal of Pharmacological Sciences 優秀論文賞規定	附　則　第3条の副賞の額は5万円/件とする．
年会優秀発表賞規定	附　則　第3条の副賞の額は1万円/名とする．

Ⅷ. 理事会等報告

理 事 長：赤池　昭紀　　以上　1名
理　　事：赤羽　悟美，　荒木　博陽，　池谷　裕二，　石井　邦明，　石毛久美子，　今井由美子，　今泉　祐治，
　　上園　保仁，　金井　好克，　高橋　健三，　橋本　　均，　松木　則夫，　南　　雅文，　宮田　篤郎，
　　山田　清文，　吉岡　充弘，　渡邉　裕司　以上 17 名
監　　事：馬嶋　正隆，　三輪　聡一　　以上　2名
ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ：飯野　正光，　植田　弘師，　成宮　　周　以上　3名

1.　理事会構成について

平成 28 年度は，赤池 昭紀理事長，赤羽 悟美財務委員長，今泉 祐治総務委員長，山田 清文編集委員長の各常務理事，吉岡 充弘副理事長，企業所属理事，公的研究機関所属理事，女性理事を含む 18 名の理事と 2 名の監事で理事会の運営がなされた．

2．学会の運営について

薬理学の振興によって学術文化の発展に寄与する本会定款の趣旨に則り，1）前期理事会で承認された平成 28 年度事業計画を忠実に執行すること，2）理事会，常置委員会等の申し送り事項を検討し，懸案事項の早期解決を図ること，3）理事会継続性担保のために導入した副理事長制を維持すること，に加えて学会の更なる活性化に向けた方策を実施する方針に基づき，本年度の学会運営がなされた．

・今期の理事会は，WCP2018 の最終準備期間（2018 年 3 月まで）を担当するため，WCP 組織委員会との連携を強化し，国際対応委員会を中心に対外活動を行った．
・会員の薬理学教育経験等を認定する薬理学エデュケーター制度導入の検討を開始し，また，若手会員の学会運営参画の促進を図った．看護の分野との連携の可能性を検討した．
・事務局体制に関するワーキンググループを編成し，事務局の在り方を検討の結果，定期的な見直しを前提として，2020 年度以降も事務局を継続することを決定した．再雇用を含む職員の雇用，給与体系の見直し，会員管理の効率化及び事業活動と連動する会員管理システムの構築を具体化する．

3．学会の在り方と薬理学の展開について

日本医学会の「医学研究の利益相反（COI）マネージメントに関するガイドライン」の改定に合わせて，COI の申告書様式を改定し，それぞれの事業において COI 開示の周知に努めた．

1）学術集会，講演会等の開催事業について

・第 89 回年会（石井 邦雄年会長）は，『Voyage beyond the Horizon』をテーマとし平成 28 年 3 月 9 日から 11 日までパシフィコ横浜会議センターで開催された．プレナリーレクチャーは 2015 年ノーベル生理学・医学賞受賞者の大村 智氏（北里大学特別栄誉教授）が『求めていなければ授からないーエバーメクチン物語ー』を講演した．内外の研究者 9 名の特別講演，JPS と ASPET の講師交換プログラム，日本医学会，日本生理学会，日本毒性学会及び日本臨床薬理学会との各共催を含むセミナーやシンポジウム，ワークショップがそれぞれ開催された．
　科学研究費補助事業公開講座は，平成 28 年 3 月 12 日に，『薬の過去・現在・未来～その役割の変遷～』をテーマに北里大学薬学部コンベンションホールで開催された．
・地方部会は北海道，栃木県，静岡県，広島県，京都府，愛媛県の各会場で地域特性を生かした企画で 6 回開催された．新薬理学セミナーは第 134 回関東部会，第 130 回近畿部会それぞれと連携して 2 回，薬理学振興助成事業の公開講座は第 129 回近畿部会，第 69 回西南部会それぞれと連携して 2 回開催された．

2）学会誌等刊行物の刊行事業について

・日薬理誌は，海外会員への情報発信強化のため英文抄録を併記する取り組みを検討している．
・Japanese Pharmacological Sciences（JPS）の平成 28 年の論文採択率は 28%であった．国内論文は 66%，海外論文は 13%である．JPS 査読者の質の向上と，掲載論文の国際的価値を高めることに資する目的で創設された JPS 優秀査読者賞の平成 28 年度受賞者 4 名を決定した．

3) 研究の奨励及び研究業績の表彰事業について

・江橋節郎賞選考委員会の答申に基づき池谷 裕二教授（東京大学大学院薬学系研究科）を第10回江橋節郎賞受賞者に決定した.

・第32回学術奨励賞受賞者3名及びJPS優秀論文賞受賞論文2編を決定した. JPS優秀論文賞は, 過去3年間に掲載された原著論文の中で引用回数の多い順に約10編を選び, その中から選考されている.

・平成28年度（第89回年会）の年会優秀発表賞は, 11名に贈呈された.

4) 内外の関連学術団体との連携及び協力事業について

・ASPETとJPSの講師交換プログラムを開始し, 第89回年会にASPETからJeffrey Conn教授を招へいした.

・10月21から23日までパリで開催されたIUPHAR Nomenclature Committee（NC-IUPHAR）の会合に金井 好克大阪大学教授が参加した.

・IUPHAR Education Projectに期限付きの財政援助を行うことを決定し, 平成28年度分として8月に1万ドルを送金した. 平成29年度, 平成30年度も同額を送金する.

・その他, WCP2018に向けて, 内外の学術団体と連携を進めた.

4. 代議員選挙, 役員候補者及び常置委員会委員選挙の実施

平成28年に就任する代議員の選出選挙,平成30年に就任する役員候補者及び常置委員会委員の選出選挙をWeb投票により実施した. 平成28年度の選挙より投開票が全面電子化となり, 有権者は会員IDにより, 選挙投票サイトにログインして投票する方式である. 代議員選挙の投票期間は9月1日より9月30日まで, 10月6日の開票結果により就任した代議員の任期は平成30年の代議員選挙までである. 役員候補者等選挙は平成28年10月1日より10月31日まで役員候補者の推薦受付,11月15日に投票サイトがオープンし,12月9日まで投票を受け付け,12月20日の開票により, 役員候補者と常置委員会委員を決定した. 第90回年会の学術評議員会出席学術評議員により役員選挙が行われ, 当選者は役員選考委員会選出理事とともに, 平成30年3月の総会で選任された後就任する.

5. 第92回（平成31年）年会長候補者の決定

第92回年会は第32回日本医学会総会中部の開催に合わせて, 近畿部会で開催すること, 第92回日本薬理学会年会長として大阪大学大学院医学系研究科の金井好克教授が提案され, 承認された.

6. 名誉会員の推薦

平成29年度に就任する名誉会員候補者3名を学術評議員会及び総会に推薦することを決定した.

尾崎 博, 木村 純子, 柳原 延章

7. 永年会員の推薦

平成29年度に就任する永年会員候補者9名を学術評議員会及び総会に推薦することを決定した.

安東 潔, 伊藤 継孝, 高橋 和雄, 田中 實, 鍋嶋 詢三, 西尾伸太郎, 牧村 瑞惠, 松田 宏三, 村上 元

8. 平成29年度薬理学振興助成事業決定について

1）市民公開講座, 2）ダイバーシティ推進ランチョンセミナー2017, 3）第90回年会若手研究者キャリア支援プログラム（仮）, 4）第90回年会講演の動画配信, 5）第90回年会レギュラトリーサイエンスランチョンセミナー, の各助成事業及び助成額を決定した.

9. 平成28年度の事業報告及び決算を承認し, 学術評議員会及び総会に付議する. 平成29年度事業計画及び予算は, 平成28年12月16日開催の理事会の承認, 決定を経て内閣府に提出した.

10. 平成27年12月から平成28年11月までの新規入会者458名を承認した. 平成29年度からシニア割引適用を希望する18名を承認した.

Ⅸ. 委員会等報告

（各委員会委員名は五十音順，敬称略）

総務委員会報告

委員長：今泉 祐治

委　員：伊藤 芳久，荻田喜代一，土屋浩一郎，中西　博，服部 裕一，松木 則夫，南　雅文，矢部 千尋

本年度は 11 月 1 日に委員会を開催し，その他にメール会議を行った．

1. 規則の変更について

1）定款施行細則第 10 条に，学術評議員会選出理事が任期中に部会異動した場合の理事の帰属とその職務について定める第 2 項の追加案，2）満 64 才で就任した役員，常置委員の任期を明確にし，名誉会員推薦要件に「役員，委員在任中でない者」を追加する名誉会員推薦規定変更案，3）会員の慶事に関する取扱い基準を「慶弔に関する取扱規則」に追加する案について検討を行い，理事会に提示した．

・定款施行細則第 10 条に，学術評議員会選出理事が任期中に部会を異動した場合，「転出後の部会で学術評議員としての資格を有する．ただし，部会を転出した後も，選出された部会の理事として職務を行う」とする第 2 項を追加する変更案を理事会に提案した．

・役員，委員は就任年の 4 月 1 日において満 65 才未満と定められており，満 64 才で就任した役員，常置委員はその任期中に名誉会員の資格を充足する場合がある．役員，常置委員はいずれも 2 年の任期を全うすることを原則とし，名誉会員推薦規定第 2 条の名誉会員に推薦することができる者の要件に「役員または常置委員在任中ではない者」を追加する変更案を理事会に提案した．

・慶弔に関する取扱規則の別表に慶事の取扱基準を追加した．

また，Web 選挙導入にあたり，1）代議員選挙の投票有権者を，選挙公示日の前月 1 日において当該選挙区に所属する正会員とする，2）役員候補者被選挙権者を推薦できる者は，推薦投票公示日の前月 1 日において当該部会に所属する学術評議員とする，代議員選挙規定ならびに役員等選挙実施規定の変更を行った．

2. 新名誉会員・新永年会員の推薦について

名誉会員推薦規定及び同運用基準，永年会員推薦規定及び同運用基準に基づき，平成 29 年度に就任する名誉会員候補者 3 名，永年会員候補者 9 名が推薦要件を充足することを確認し，理事会に報告した．

3. シニア会員申請書審査について

日薬理誌 9 月号及び 10 月号にシニア割引申請受付の案内と申請書様式を掲載し，会員への周知に努めた．平成 29 年度会費よりシニア割引適用を希望する者について審査を行い，申請者全員にシニア割引を適用できることを確認した．期限を過ぎた申請も 1 月の会費請求に間に合う限り受け付け，シニア割引適用希望者 18 名を理事会に報告した．

4. 電子投開票システムによる選挙の実施について

平成 28 年度選挙より選挙投開票を全面電子化し，9 月に代議員選挙を，10 月から 12 月初旬に役員候補者等選挙を実施した（役員候補者等選挙は WCP2018 開催に伴い 1 年前倒しで実施）．

全面電子化により，開票作業が迅速化する一方で，投票率には顕著な上昇がみられなかった．投票サイトへのログイン ID に会員 ID を入力する現行の方法が要因の一つとして挙げられるが，平成 29 年度内に，学術集会の参加登録を含む新会員管理システムの導入が予定されており，その一環で投票サイトへのログイン方法についても改善が図られる予定である．

利益相反（COI）委員会報告

委員長：今泉 祐治

委　員：伊藤 芳久，荻田喜代一，土屋浩一郎，中西　博，服部 裕一，松木 則夫，南　雅文，矢部 千尋

本年度は委員会を 1 回開催した．

日本医学会の COI マネジメントガイドライン 2015 年改定版に則り，理事会構成員，部会長，日薬理誌の筆頭著者，事務局職員より利益相反（COI）申告書が提出された．

・日薬理誌の筆頭著者では，1）共同研究ないしは受託研究の研究費補助を受けている者 4 名，2）奨学寄附金を受けてい

る者2名である.
・理事会構成員では，1）製薬会社より共同研究ないしは受託研究の研究費補助を受けている者8名，2）奨学寄附金を受けている者2名，3）企業･団体より原稿料ないしは講演料を受けている者2名，4）企業･団体より顧問報酬を受けている者，企業･団体より特許権使用料を受けている者，企業からの寄附口座に所属する者が各1名である.
審査の結果，いずれの申告にも問題が無いことを確認した.

財務委員会報告

委員長：赤羽　悟美
委　員：石澤　啓介，今井由美子，岡　淳一郎，島添　隆雄，　武田　弘志，谷内　一彦，吉栖　正典

委員会は平成28年度の決算処理を行い，平成29年度の予算案を編成した.

1. 平成28年度決算について

平成28年度の収入は，前年度より約1,494万円減少の1億6,103万969円，支出は前年度より約122万円減少の1億6,381万8,248円となり，収入の減少が支出の減少を大きく上回ったため，平成27年度の約1,093万円の黒字決算から一転し，約278万円の赤字決算となった．個人会費収入は，入会者数の減少及びシニアの定年退職に伴う退会者数の増加で今年度も減少し，賛助各社の口数減も相まって，暫く漸減傾向が続く見込みである．刊行事業収入は，論文別刷料を除き，購読料，論文掲載料，広告掲載料が減少したが，国際情報発信の科学研究費補助金の採択と出版業務の委託先変更による業務委託費の減額により，編集刊行事業収支は改善している．管理費では外部委託していた会員管理業務を学会事務局で行うことを決定し，10月に会員管理担当非常勤職員1名を雇用した．平成28年度は代議員選挙に加えて平成30年に就任する役員等選挙が前倒しで行われたが，選挙費用は選挙投開票に全面電子化システムを導入したことで投票用紙の郵送代等が不要となり，開票立会人の旅費等で20万円程度の支出にとどまった．平成28年度収支が再び赤字に転落したのは主に学術集会事業収支が思わしくなかったことに起因している.

2. 平成29年度予算について

平成29年度予算は平成28年度決算数値をもとに編成している．収入は，科目のほぼ全てにおいて前年度予算よりも減少，支出も収入に連動して減少となる予算である．非常勤職員雇用による人件費の増額があるが，増額分は外部委託費の減少で相殺されるため，財政への影響はない．新規の事業は行わず，事務局体制の変更も財政に影響しないことにより，平成29年度の収入は平成28年度予算額より約2,168万円減少の約1億5,281万円，支出は平成28年度予算額より約1,813万円減少の約1億5,084万円とし，収支差額約197万円の黒字予算編成となった.

3. 内閣府立入検査の指摘事項への対応について

・学会規定に「謝金の支給基準」及び「海外からの招待講演者等の旅費基準」を補足すべきとの事項には，年会会計運用規則に謝金の支給基準を別表として追加した．また，各賞賞金額（副賞）については，附則にそれぞれの賞金額を明示した.
・平成27年度の公益目的事業収支が約760万円の黒字であったため，収支相償の方針に則り黒字解消策を検討し，以下を理事会に提案した.
  1）学術集会の参加登録機能を盛り込んだ新会員管理システムを構築し，会員や学術集会参加者の利便性を向上させ，業務の効率化を図る．新会員管理システムは，平成29年後半に導入される見込みである.
  2）IUPHARの発展途上国等へのEducation Project（PEP）への拠出（年間10,000ドルで，3年間）に充当する．平成28年に第1回分を送金済みで，平成29年度と平成30年度にも同額を送金する.

4. 財務シミュレーションについて

財政改善策に取り組んだ結果,平成27年度決算が黒字となったことを受けて平成27年度決算額に基づく財務シミュレーションを行った．学会の事業活動に伴う収入と支出のバランスをとった場合に，会費収入をどの程度，事務局関連経費に支出できるかという観点での試算である．事務局関連経費は2,300万円前後で推移していることから会費収入が90%，さらに80%に減少した場合でも事務局関連経費を確保できるという見込みを理事会に報告した.

編集委員会報告

委員長(JPS Editor-in-Chief)：山田　清文
委員(JPS Associate Editors)：石毛久美子，上園　保仁，大野　行弘，兼松　隆，　黒川　洵子，　笹栗　俊之，
田熊　一敞（Press Editor），田中　光，　津田　誠，　西堀　正洋，　松本　欣三

Ⅰ. JPS投稿・審査状況（投稿数，採択率，Impact Factor）

1. 受付論文数（2016年1月1日～12月31日受付．Reviewを含む）

1）分野別 :(　) 内は海外からの内数

1 生理活性物質	15 (12)
2 受容体・チャネル・輸送系	33 (19)
3 細胞内情報伝達	23 (20)
4 生化学薬理	48 (44)
5 末梢神経薬理	4 (1)
6 心血管薬理・血液	40 (24)
7 中枢神経薬理	35 (17)
8 呼吸器薬理	9 (8)
9 腎薬理	15 (10)
10 消化器薬理	18 (12)
11 平滑筋薬理	0 (0)

12 骨・歯科薬理	8 (4)
13 内分泌薬理	12 (5)
14 臨床薬理	12 (10)
15 免疫薬理・炎症	8 (5)
16 化学療法	4 (2)
17 毒科学	9 (7)
18 Natural medicine materials	17 (13)
19 幹細胞薬理	4 (4)
20 疼痛薬理	13 (3)
21 生物製剤薬理	3 (2)
合計	330(222)

2) 国別

China 155, Japan 108, Korea 14, Taiwan 8, India 6, USA 5, Brazil 3, Iran 3, Mexico 3, Nigeria 3, Poland 2, Saudi Arabia 2, Serbia 2, Cameroon 1, Croatia 1, Egypt 1, Germany 1, Hong Kong 1, Hungary 1, Israel 1, Italy 1, Morocco 1, Netherlands 1, Pakistan 1, Russia 1, Singapore 1, Thailand 1, Tunisia 1, Turkey 1

2. 採択率（投稿年別）

2009年 47%, 2010年 49%, 2011年 50%, 2012年 50%, 2013年 48%, 2014年 42%, 2015 年 32%,
2016年 28%（国内論文 66%, 海外論文 13%）
*注：2017年1月20日現在，審査中 21件.

3. Impact Factor （Journal Citation Report JCR® 発表）

2008年：2.599, 2009年：2.176, 2010年：2.260, 2011年：2.082, 2012年：2.150, 2013年：2.114, 2014 年：2.360, 2015年：2.106（国内発行の自然科学系247誌中 32位）

Ⅱ. JPS刊行状況：本資料の「事業報告」の項に記載

Ⅲ. JPS審議・決定，報告事項

1. 編集体制について

現行は国内 12名，海外 9名の編集体制であるが，海外 Editor Dr. Maurizio Popoli (University of Milan, Italy) の任期満了 (2016.5.31) に伴い，Dr. Archibald McNicol(Manitoba University, Canada)を新たに海外 Editor に選任した（任期：2017.1.1-2020.12.31）．その他，2017 年中には 6 名の海外 Editor が任期満了を迎えるため，海外 Editor 候補の選考を開始する.

2. JPS 優秀論文賞について

JPS 優秀論文賞規定および JPS 優秀論文賞受賞論文選考規定に従って，平成 25 年度から平成 27 年度掲載分の原著論文の中から，第 21 回 JPS 優秀論文賞受賞論文 2 編を決定した.

・Inhibition of Autophagy Enhances Sunitinib-Induced Cytotoxicity in Rat Pheochromocytoma PC12 cells.
Tatsuhiko Ikeda, Kiyo-aki Ishii, Yuria Saito, Masahiro Miura, Aoi Otagiri, Yasushi Kawakami, Hitoshi Shimano, Hisato Hara, Kazuhiro Takekoshi
Vol. 121, No. 1 pp. 67-73 (2013)

・Stimulation of Metabotropic Glutamate (mGlu) 2 Receptor and Blockade of mGlu1 Receptor Improve Social Memory Impairment Elicited by MK-801 in Rats.
Hirohiko Hikichi, Ayaka Kaku, Jun-ichi Karasawa, Shigeyuki Chaki
Vol. 122, No. 1 pp. 10-16 (2013)

3. JPS 優秀査読者賞について

JPS優秀査読者賞規定および JPS優秀査読者選考規定に従って，2016 年度 JPS 優秀査読者 4 名を決定した.

・Kim, Hyoung-Chun (Kangwon National University, Neuropharmacology and Toxicology, Korea)
・Cheng, Juei-Tang (Chang Jung Christian University, Medical Sciences, Taiwan)
・筒井　正人（琉球大学大学院 医学研究科）
・平野　勝也（香川大学医学部）

4. 国際情報発信強化の取組みについて

国際情報発信強化の科研費補助金により， 2016 年 9 月 18 日から 23 日まで開催された 2016 年国際安全性薬理合同年会に委員 1 名が出席し,エルゼビアのブースに JPS のチラシをおき,JPS への投稿を呼びかける等の広報活動を行った.

2016-2017 年度 Editor および Advisor の担当分野

分野		Editor	Advisor
01	生理活性物質	石毛, 上園, 大野, 兼松, 黒川, 笹栗, 田熊, 田中, 津田, 西堀, 松本, Govitrapong, Lawrence, Wong	安西尚彦, 稲垣直樹, 石橋 仁, 上野 晋, 香月博志, 葛巻直子, 亀井淳三, 小山 豊, 近藤一直, 田中宏幸, 田中芳夫, 西山 成, 福永浩司, 柳田俊彦, Kim
02	受容体・チャネル・輸送系	石毛, 上園, 大野, 兼松, 黒川, 田熊, 田中, 津田, 西堀, 松本, Bhuiyan, Govitrapong, Lawrence, Okamoto, Wong	安西尚彦, 稲垣直樹, 礒濱洋一郎, 石橋 仁, 上野 晋, 内田信也, 香月博志, 葛巻直子, 亀井淳三, 小山 豊, 酒井規雄, 武田泰生, 田中芳夫, 西山 成, 平野勝也, 柳田俊彦, Bathgate, Mallei, Musazzi, Razzaque, Satayavivad, Uddin
03	細胞内情報伝達	石毛, 上園, 兼松, 笹栗, 田熊, 田中, 津田, Govitrapong, Han, Okamoto	石橋 仁, 香月博志, 木澤靖夫, 亀井淳三, 小山 豊, 酒井規雄, 武田泰生, 平野勝也, 福永浩司, 柳田俊彦, Bathgate, Bian, Chong, Kim, Lu, Mallei, Musazzi, Shen, Vincent, Zhou
04	生化学薬理	石毛, 兼松, 笹栗, 田熊, 田中, 西堀, Bhuiyan, Govitrapong, Okamoto, Wong	稲垣直樹, 内田信也, 小山 豊, Bathgate, Chong, Kim, Mallei, Musazzi, Razzaque, Sun, Uddin
05	末梢神経薬理（自律神経・運動神経・局所麻酔を含む）	上園, 田中, Govitrapong	稲垣直樹, 石橋 仁, 礒濱洋一郎, 亀井淳三, 竹内正吉, 田中芳夫, 松本直樹, 柳田俊彦
06	心血管薬理・血液	黒川, 笹栗, 田中, 西堀, Bhuiyan	安西尚彦, 梅村和夫, 近藤一直, 田中芳夫, 西山 成, 平野勝也, 福永浩司, 松本直樹, Bian, Razzaque, Satayavivad, Uddin
07	中枢神経薬理	石毛, 上園, 大野, 田熊, 津田, 松本, Govitrapong, Han, Lawrence, Suh, Wong	荒木博陽, 石橋 仁, 岩崎克典, 上野 晋, 香月博志, 葛巻直子, 亀井淳三, 小手川勤, 小山 豊, 酒井規雄, 千堂年昭, 武田泰生, 徳山尚吾, 福永浩司, 柳田俊彦, Chong, Kim, Lu, Mallei, Musazzi, Satayavivad, Shen, Parish,Vincent, Zhou
08	呼吸器薬理	田熊	稲垣直樹, 礒濱洋一郎, 亀井淳三, 木澤靖夫, 田中宏幸, 松本直樹, Satayavivad
09	腎薬理	大野, 笹栗, Bhuiyan	荒木博陽, 安西尚彦, 千堂年昭, 西山 成, 松本直樹, 藤田朋恵, Razzaque, Uddin
10	消化器薬理	上園, Okamoto	Satayavivad, 竹内正吉
11	平滑筋薬理	笹栗, 田中	木澤靖夫, 竹内正吉, 田中芳夫, 平野勝也
12	骨・歯科薬理	兼松, 笹栗, 田熊, 松本	大谷啓一, 戸苅彰史
13	内分泌薬理	Govitrapong	戸苅彰史, 徳山尚吾, 西山 成, 福永浩司, 柳田俊彦, Bathgate
14	臨床薬理	笹栗, 山田	荒木博陽, 安西尚彦, 内田信也, 梅村和夫, 小手川勤, 近藤一直, 千堂年昭, 武田泰生, 徳山尚吾, 坪井正博, 藤田朋恵, 松本直樹
15	免疫薬理・炎症	笹栗, 西堀, Xu	稲垣直樹, 田中宏幸, Chong, Shen, Sun
16	化学療法	上園, 笹栗	武田泰生, 坪井正博, Sun
17	毒科学	大野, 黒川, 田熊, Govitrapong, Han	上野 晋, Lu, Satayavivad, Zhou
18	Natural Medicine Materials	上園, 笹栗, 松本, Govitrapong, Han	稲垣直樹, 礒濱洋一郎, 岩崎克典, 坪井正博, Lu, Satayavivad, Zhou
19	幹細胞薬理	黒川, Bhuiyan, Suh	Razzaque, Uddin
20	疼痛薬理	上園, 津田, Han	亀井淳三, Lu, Zhou
21	生物製剤薬理	Han, Bhuiyan	Lu, Razzaque, Uddin, Zhou
	統計処理		浜田知久馬

研究推進委員会報告

委員長：吉岡 充弘

委　員：石川 智久，今井由美子，岩崎 克典，高井 真司，成田　年，西山　成，福永 浩司，宮田 篤郎，渡邉 裕司

本年度は委員会を１回開催した.

1.「第 30 回日本医学会総会 2019 中部」の学術プログラムの提案について

日本医学会長から，第 30 回日本医学会総会 2019 中部の学術プログラムに関するアンケート調査があり，下記の内容の提案を行うことを理事会に報告した.

(1)「医学と医療の新展開」

①テーマ：Precision Medicine への創薬戦略

(2)「社会とともに生きる医療」

①テーマ：超高齢化に向けた薬理

②テーマ：健康食品やサプリメントの効果の科学的証拠

(3)「医療人の教育と生き方」

①テーマ：６年制薬学教育の導入で何が変わったか

2. 新薬理学セミナーの総括及び今後の開催について

平成 21 年度より実施されている「新薬理学セミナー」について，抜本的な改善が必要であることを確認し，以下の提言を理事会に行った.

若手研究者が参加しやすいセミナーとすべきであり,「次世代の会」と連携を図ることが必要である. 具体的には, 2018 年関東(春)部会（3 月に総会と同時開催）と連動し，トライアルとして研究推進委員会から一定の指針を示し,「次世代の会」に新薬理学セミナーの企画・実施を任せるべきである.

3. 2017 年度生命科学系学会合同年次大会について

日本生化学会と日本分子生物学会の呼びかけに対し，2017 年（平成 29 年）12 月 6 日(水)より 9 日(土)までの４日間神戸にて開催される合同年次大会へ日本薬理学会も協賛することとし，以下のシンポジウムを提案した.

タイトル：「シングルセル解析が切り開く薬理学の新潮流」

オーガナイザー：成田　年，山中 章弘

4. 平成 20 年に作成された「薬理学パンフレット」の改訂版の編集について

平成 30 年を目途に,「日本薬理学会が果たしてきた貢献」についてどのように情報発信していくかを含め議論し，作業していくこととした.

広報委員会報告

委員長（会誌編集長）：宮田　篤郎

委　員：荒木　博陽，　金井　好克，〇金子　周司，　亀井　淳三，　川西　　徹，　木内　祐二，　色摩　弥生，
原　　英彰，　平藤　雅彦，　古屋敷智之，　山田　久陽　　（〇は会誌副編集長）

新年度第 1 回広報委員会を 2016 年 6 月 29 日(水)に開催，その後はメールで審議を行った.

1. カラー印刷について

業務委託先である中西印刷との契約内容では，本文についてはモノクロ印刷となっているが，現状の編集方針では，カラー印刷頁が多くあり，中西印刷に負担を強いているのが実情である. その対応として，著者の自己負担とする意見，或は学会が負担する形でカラー印刷を含めた契約に改める案などが出され,予算増額を伴う可能性があることから理事会に諮りながら，対応策をとりまとめることとなった.

2. リレーエッセイについて

前年度委員会からの提言を基に，今年度の方針を検討し，部会毎のリレーを複数同時並行的に走らせるなどの提案があり，次世代の会と協議し進めることが了承された.

3. 英文 Abstract の追加について

WCP2018 に向け，薬理学会の機関誌として海外の研究者に対し少しでも情報を発信できるよう，英文 Abstract を掲載することについて検討を行った．現在エルゼビアで公開されている JPS の Supplement には，年会の英文 Abstract が収録されており，特にシンポジウムに基づく特集の場合重複の可能性がある．この件に関して，JPS 編集委員会に確認したところ，現在のエルゼビアとの契約では，クリエイティブ・コモンズの CC BY（出典の明示）NC（非営利）ND（改変禁止）という利用者ライセンスで，オープンアクセス出版しているとのことであった．この CC ライセンスのうち，ND（改変禁止）が含まれていることで日薬理誌への英文 Abstract の掲載が難しくなることが予想される．このため，CC ライセンスに関する契約の変更も含め，編集委員会と連携をとりながら進めることになり，また，英文 Abstract の体裁，内容，校閲方法などについても引き続き検討することとなった．

4. 新教授紹介欄について

これまで，新規に教授に就任された薬理学会会員を対象に執筆依頼を送っていたが，すでに薬理学教授に就任されておられて新たに大学間を異動された教授に対しても執筆を依頼してもよいのではないかという提案があり了承された．

5. 日本薬理学会ホームページ(HP)について

平成 29 年度には会員情報，各種申請および部会登録が新 Web システムに統合される予定であり，その経過を見てホームページデザインの刷新を行う予定である．

6. 日薬理誌の現在の編集状況と今後の原稿予定

2017 年 12 月号までの掲載予定状況を確認した．委員から「総説」,「実験技術」,「キーワード解説」,「最近の話題」などの執筆者の提案を受け付けている．第 90 回年会シンポジウム・オーガナイザーから日薬理誌への寄稿を募集した．

7. 平成 29 年度日本薬理学会市民公開講座の募集

平成 29 年度の部会時に市民公開講座を開催する場合に，薬理学振興助成事業から部会に支援できるよう財務委員会に，予算申請(1 件当たり 40 万円，合計 120 万円の支援)を行った．平成 29 年度中に３件の開催が可能であり，春季近畿部会での開催１件がすでに決定している．

企画教育委員会報告

委員長：池谷　裕二

委　員：石井　邦明，石毛久美子，稲垣　直樹，上園　保仁，杉山　篤，高橋　健三，橋本　均，柳田　俊彦

委員会を 2 回開催し，以下について審議した．

1. 新学術評議員候補者選考の件

新学術評議員選考規定に基づき，平成 29 年度新学術評議員申請者 47 名について慎重かつ厳正に審査を行った．うち 1 名については特例措置を適用した．また 2 名については要件を満たさないことから次年度以降に再審査に付すこととした．結果として 45 名を学術評議員候補者として選定し，理事会および学術評議員会に諮ることとした．なお，学術評議員候補者数が年々漸減しているため，この対応策として，ｉ）申請手続きの簡便化，ii）選考基準の簡素化，の二点について具体案を整備し，理事会に諮ることとした．

2. 看護への取組み，看護大学等との連携の件

看護学部ならびに看護大学における薬理学分野のスタッフおよび学生の方々と当学会の連携を効果的に図るために,看護薬理学委員会（仮称）の設置を理事会に要望することとした．

3. ダイバーシティ推進事業

年会におけるダイバーシティ推進ランチョンセミナーについて，第 90 回年会では日本大学・薬・石毛 久美子先生にお世話いただくことになった．

賞等選考委員会報告

委員長：橋本　　均

委　員：安西　尚彦，石毛久美子，上原　　孝，小泉　修一，武田　泰生，津田　　誠，平藤　雅彦，藤尾　　慈

委員会を1回開催し，以下について審議した．

1. 第32回（平成29年度）学術奨励賞受賞候補者の選考について

過年度の本委員会の議事録，理事会における関連事項の審議結果および賞の在り方に関する諮問委員会の答申内容を確認した．さらに，それらに基づいて行った日本薬理学会学術奨励賞受賞候補者推薦書（以下，推薦書）の様式の改訂（事前報告済）と，推薦書の評価方法について確認した．

次いで，候補者7名の推薦書について，「薬理学の進歩に寄与する顕著な研究を発表し，将来発展の期待される研究者に対し授与する」（学術奨励賞規定第2条から抜粋）に基づく観点により，事前に全委員が審査した評価結果をもとに，本委員会ではそれらを多角的に分析し，慎重に審議した．その結果，上位3名を受賞候補者とすることを決定し，金丸　和典氏，佐々木　拓哉氏，塩田　倫史氏（50音順）を第32回（平成29年度）学術奨励賞の受賞候補者として，選考の経過とともに理事長に答申した．

2. 平成29年度薬理学振興助成事業の選考について

申請があった下記5件の審査の結果，本委員会はすべての申請を採択する旨理事会に答申した．

1）市民公開講座　　1,200,000円（広報委員会申請）

2）ダイバーシティ推進ランチョンセミナー2017　400,000円（企画教育委員会，ダイバーシティ推進担当申請）

3）第90回年会　若手研究者キャリア支援プログラム（仮）　520,000円（第90回植田年会長申請）

4）第90回年会　講演の動画配信　701,060円（第90回植田年会長申請）

5）第90回年会　レギュラトリーサイエンスランチョンセミナー　228,000円（第90回植田年会長申請）

3. 各種助成団体等への本会としての推薦

・日本学術振興会育志賞：1名を学会推薦

・東レ科学技術研究助成：2名を学会推薦

年会学術企画委員会報告

委員長：高橋　健三

委　員：池谷　裕二，　今井由美子，　岡　淳一郎，　宮田　篤郎，　吉岡　充弘，　渡邉　裕司

オブザーバー：石井　邦雄，　植田　弘師，　成宮　　周

第89回年会長の石井邦雄先生，第90回年会長の植田弘師先生，第91回特別年会長の成宮 周先生がオブザーバーとして参加した．平成28年6月18日に委員会を開催し，その他にメール会議で審議等を行った．

1. 第89回年会の総括について

第89回石井年会長より，第89回年会の参加者数は2,280名であり，例年と比べ大学院生と学部学生の参加者が多かったこと，プレナリーレクチャーや年会企画シンポジウムの多くは聴講者が多かったこと，などが報告された．また，公募も含めシンポジウム数が多く，同時進行の他のプログラムを含めて聴講者が分散してしまったことから，シンポジウムの数を絞るなどの対策が必要であることが提起された．

2. 第90回年会の企画案について

第90回植田年会長より，第90回年会の企画案が提示され，了承された．テーマは『出島に学ぶ -Therapeutic Innovation from Dejima-』であり，「討論の充実」と「国際プレゼンスの向上」を特色として，公募および企画シンポジウムでは，①討論時間の確保，②パネルディスカッション，③指名討論者設置，④シンポジウム選考に関わる参考資料，⑤発表形式のモデル化，⑥公募ナノシンポジウムに取り組む．また，英語版の電子リーフレットを作成し，各国，共同研究先，留学経験者（Revisit）へ送付・配信する．プレナリーレクチャー（1枠），特別講演（8枠），JPS-ASCEPT Lecture（1枠），特別招待講演（1枠），教育セミナー（1枠），市民公開講座，シンポジウム・ワークショップ，一般演題（口頭・ポスター），学生セッションなど，前回とほぼ同様の演題数を予定しているが，公募シンポジウムについては前回の41枠より減らす方針が示された．年会企画シンポジウムでは，「アカデミア創薬」，「薬理研究成果の社会還元と起業」，

「糖尿病性腎症に対する未来医療を目指した最先端研究」，「陰と陽の作用を持つ DAMPs 創薬のさきがけ」，「『口腔ブレインサイエンス』に学ぶ健康長寿」，「変わるがん医療 −基礎研究から臨床・チーム医療への展開−」，「薬理学教育の新展開：薬理学エデュケーター制度の是非を問う」の7演題が企画された.

3. 第90回年会における他学会との共催シンポジウムについて

・日本臨床薬理学会との共催シンポジウム：
「糖尿病の薬理／臨床薬理 新たな血糖調節メカニズムの解明とPrecision Medicineへのロードマップ」
オーガナイザー：植田 真一郎（琉球大学），寺本 憲功（佐賀大学）

・日本生理学会との共催シンポジウム：
「痛み，痒み，しびれなどの感覚受容の分子機構に関する最先端研究」
オーガナイザー：富永 真琴（岡崎統合バイオサイエンスセンター），川畑 篤史（近畿大学）

・日本医学会連合との共催シンポジウム:「ミトコンドリア創薬 −治療法の無い時代からの転換点−」
オーガナイザー：阿部 高明（東北大学），安西 尚彦（千葉大学）

・日本毒性学会との共催シンポジウム（日本毒性学会年会での開催）：
「細胞内小器官シグナルネットワークを介する臓器毒性制御」
オーガナイザー：上原 孝（岡山大学），西田 基宏（岡崎統合バイオサイエンスセンター）

なお，日本毒性学会との共催シンポジウムは隔年交替で開催されているが，次回の2018年はWCP2018が開催されることから，2年連続して日本毒性学会で開催されることが決定した.

4. 第90回年会の公募シンポジウムについて

公募シンポジウムとして45件の応募があり（公募ワークショップへの応募はなかった），年会組織委員会および年会学術企画委員会において，1）内容が薬理学会として高いレベルのものであるか，2）新しく，今後薬理学会にとって必要な分野であるか，3）各分野領域における話題性があるか，などの観点から審査を行った結果，シンポジウムとして31件，早朝ワークショップとして8件が採択され，6件が不採択となった.

5. 企業企画シンポジウムについて

今後のあり方について検討した結果，当面は企業企画シンポジウムを継続し，企業の積極的参加を促すと共に競争的な選考とするため，企画シンポジウムの一つとして公募の企業枠(1〜数件程度で柔軟に)を設定し，運用する方針とした.

江橋賞選考委員会報告

委員長：岩尾　洋

委　員：審良 静男，清野　進，樋口 輝彦，藤田 敏郎，柳田 敏雄（以上学会外委員）
井上 和秀，鈴木　勉，元村　成，矢部 千尋

第 10 回江橋賞候補者選定のための委員会を 10 月 28 日に開催した.

1）選考までの経緯：

・江橋節郎賞はこれまで独創的，飛躍的な業績をあげ，薬理学の進歩に大きく貢献した研究者に授与されてきたが，毎年の推薦数が極めて少ないため，「賞の在り方に関する諮問委員会」が設置され，候補者推薦の拡大・増加の方策が検討された.

・江橋賞は薬理学の振興のために設立された賞であることから，今後の薬理学の発展に貢献できる 40〜50 歳代の研究者も賞の対象とすることが諮問委員会の答申として示された.

・本方針に基づき，推薦を強く呼びかけた結果，第 10 回江橋節郎賞候補者に 9 名が推薦された.

2）候補者選考について：

・選考委員会当日に 9 名の候補者から 1 名に絞り込むには時間的な制約により無理があるため，選考委員全員による予備選考を行った.

・10 月 28 日の選考委員会では，まず，予備選考による上位 3 名を対象とすることを決定した．候補者 3 名の研究業績に対して，1）独創性，2）世界から見た位置づけ，3）当該分野に与えた影響度，4）研究の流れ，今後の発展性，について率直な意見交換を行った.

・意見交換の後，議長を含む出席委員全員の無記名投票を行った結果，池谷 裕二氏が出席委員の 3 分の 2 以上の票を獲得し，委員会は池谷 裕二氏を第 10 回江橋節郎賞受賞候補者として理事会に推薦することを決定した.

3）受賞候補者の研究について：

池谷候補は，脳回路の可塑性とその病態メカニズムに関して 1）脳回路網の正常な発達と異常化，2）脳回路活動を光生理学的に測定する機能解明，の二点について体系的かつ多角的な成果を挙げている．脳回路の形成プロセスを経時観察できる実験系を確立し，BDNF と GABA の異常信号が異所性回路を誘導し，将来のてんかんの危険因子となることを突き止め，医薬分野に大きな影響を与えた．また，神経細胞の発火に伴う細胞内カルシウムイオン上昇を蛍光画像で捉える「多ニューロンカルシウム画像法」を高速・大規模化し，取得したビッグデータに独自の数理解析を施すことで多くの脳回路原理を発見して世界をリードしている．池谷氏の受賞は，薬理学の発展のみならず，多くの若者を薬理学の分野に誘う等，本会の活性化に大きく貢献されるものと期待される．

4）次年度以降の予備審査等について：

・今回の受賞候補者が 40 歳代となったことをきっかけに，今後も 2 桁近い候補者が見込まれるため，1）候補者の主要論文について，本会が指定するデータベース Web of Science（Thomson Reuters）における一定時点の IF 値，CI 値を推薦書に記載すること，2）著名人によるレビューの中でどれだけ引用されているか，著名な Review 誌に具体的にどのように引用されているか等の候補者の独創性，オリジナリティ，世界から見た位置づけが把握できるような推薦書様式への変更を理事会に提案することを決定した．

国際対応委員会報告

委員長：飯野　正光

委　員：吉岡　充弘（副委員長），赤羽　悟美，安西　尚彦，池谷　裕二，金井　好克，廣瀬　謙造

顧　問：三品　昌美

本年度から新設された特別委員会であり，委員会を１回開催し，随時メール審議を行った．

1. 本委員会は,日本薬理学会の中長期的かつ総合的な国際対応のために必要な方針や対応策を策定し,理事会に答申する．
2. 2018 年に行われる IUPHAR 役員選挙に，金井好克教授（大阪大）を 2nd Vice President 候補者として日本薬理学会から推薦することを理事会に提案した．
3. ASCEPT，ASPET，BPS（それぞれオーストラリア／ニュージーランド，米国，英国の薬理学会）との交流については，2016 年 3 月に ASPET 講師 Jeffrey Conn 氏が第 89 回年会で講演し，2017 年 4 月には委員長が JPS 講師として ASPET 年会で講演するとともに WCP2018 のプロモーションを行う．また，以下を理事会に提案した．2017 年の ASCEPT への講師派遣を杉山雄一氏（理研）とする．2017 年に開催される BPS との第１回 Joint Symposium の企画を WCP2018 会長である成宮周教授（京都大）に依頼する．
4. APFP（Asia Pacific Federation of Pharmacologists）の学術集会がバンコク（タイ）で 2016 年 2 月 1～3 日に開催され，新理事長（任期 2016-2020 年）に三品昌美教授（立命館大）が選出された．APFP 主要メンバーの一つとして日本薬理学会が APFP のホームページ立ち上げに貢献することを理事会に提案した．
5. 委員長と顧問は，第 14 回中国薬理学会年会（北京市，2016 年 10 月 22～24 日）に招かれ特別講演を行うとともに，中国薬理学会・杜理事長と両学会間の交流などについて意見交換した．また，中国との Joint Meeting は，2011 年以来中断していたが，2016 年 12 月 3 日に第 37 回日本臨床薬理学会学術総会において第 6 回日中 Joint Meeting が開催された．
6. 韓国との Joint Symposium は，2012 年以来中断している．再開する可能性を探ることとした．
7. 委員長は，IUPHAR 2nd Vice President 及び WCP2018 Secretary General としてメルボルン（オーストラリア）で開催された IUPHAR 理事会（2016 年 11 月 30 日～12 月 3 日）に出席して WCP2018 開催準備状況などについて報告した．
8. 各国 Society との対応を以下の通り委員で分担して行うこととした．ASCEPT（吉岡委員），ASPET（赤羽委員），BPS（廣瀬委員），APFP（安西委員），中国（池谷委員），韓国（金井委員）．

【WCP2018組織委員会報告】

委　員：成宮　　周（会長），川合　眞一（副会長），飯野　正光*（事務総長），赤池　昭紀*，
池谷　裕二，今井由美子*，上田　泰己*，大橋　京一，熊谷　雄治，手代木　功，萩原　正敏*，橋本　　均，
松木　則夫，三品　昌美*，矢部　千尋，山崎　　力，渡邉　裕司（*日本学術会議IUPHAR分科会委員）

本会と日本臨床薬理学会の協力のもと，日本学術会議IUPHAR分科会と連携し，IUPHAR執行部の助言と協力を受けつつ開催準備を進めた．

1. 日本学術会議に共同主催を申し入れ，ヒアリング審査を受けた.
2. プレナリーレクチャーは以下の7名の講師（敬称略）に決定した：本庶　佑（Opening Lecture），山中　伸弥，Karl Deisseroth，Nancy Brown，Adam Cohen，Feng Zhang（Tang Prize Lecture），Bryan Roth（IUPHAR Analytical Lecture）
3. 国内外からの応募を受け，プログラム委員会における検討の結果，Cutting Edge Lecture 35件，Symposium 84件の大枠が決定した．また，海外からの演者招聘条件はエリアに応じたフラットフィーとすることとした.
4. 参加者数をできるだけ多くするため，事前登録費は国際会議としては抑制して一般４万円，学生１万円とすることにした.
5. サテライトシンポジウムの開催条件を決定し募集を開始した.
6. 募金活動の準備を進めた.
7. 参加登録および演題募集は2017年8月から受付を開始する予定.
   詳細については，ホームページ（http://www.wcp2018.org）を参照していただきたい.

【ダイバーシティの取組み報告】

ダイバーシティ推進担当理事・企画教育委員会委員：石毛久美子

1. 第89回年会におけるダイバーシティ企画シンポジウムについて
   第89回年会会期中の2016年3月9日に，「知る愉しみ，育む喜び」をテーマに，男性にとってのダイバーシティという視点でランチョンセミナーが開催された.男女共同参画社会を実現するためには仕事と家庭を両立できる環境整備が求められており，研究生活と育児体験等を両立し活躍されている二人の講演者の体験を紹介しながら，ダイバーシティについての課題や提言等の討論がなされた.

2. 第90回年会におけるダイバーシティ企画シンポジウムについて
   第90回年会会期中の2017年3月16日に，ファーザリング・ジャパン代表の「イクボス」に関する講演を聴講し，「イクボス」の啓発を図り，意見交換を行う.

【次世代の会活動報告】

代 表：永井　拓（近畿）
委 員：北 部 会：小原祐太郎，野村　洋，矢吹　悌
　　関東部会：井手聡一郎，大久保洋平，小菅　康弘，小山　隆太，宮川　和也，村田　幸久，藤田　智史
　　近畿部会：塩田　倫史，白川　久志，ﾀﾑｹｵﾃﾞｨｰﾝ，橋川　成美，村松里衣子，山村　寿男
　　西南部会：林　良憲，山口　拓，劉(島崎)爽

本年度は会議を１回開催する予定

1. 次世代の会による企画・シンポジウム
   第90回年会にて以下の2シンポジウムおよび1支援プログラムが企画された.
   1)「次世代の会」企画シンポジウム
   ①「核酸をターゲットとした創薬研究の最前線」
   座長：塩田 倫史（岐阜薬科大学），杉山　弘（京都大学）
   演者：塩田 倫史（岐阜薬科大学），杉山　弘（京都大学），横田 隆徳（東京医科歯科大学）
   ②「循環器疾患に関与するカルシウム関連イオンチャネルの機能解析」
   座長：山村 寿男（名古屋市立大学），冨田 拓郎（岡崎統合バイオサイエンスセンター）
   演者：冨田 拓郎（岡崎統合バイオサイエンスセンター），片野坂友紀（岡山大学），山村 寿男（名古屋市立大学）
   2) 若手研究者キャリア形成支援プログラム（「次世代の会」企画・後援）
   学生セッション（若手口演）
   キャリアセミナーおよび情報交換会

2.「次世代の会」メンバーの追加
   任期・異動によるメンバー退会に伴い，欠員の補充（2名）を行い現在のメンバーを確定した.

3. その他
   「次世代の会」に関する内規を作成し，理事会にて承認された.

X．新学術評議員一覧

平成29年度一覧（45名）

氏　名	所属機関	〒 / 所在地	TEL
池田　和隆 IKEDA, Kazutaka	東京都医学総合研究所 依存性薬物プロジェクト	156-8506 東京都世田谷区上北沢2-1-6	03-6834-2379
井手聡一郎 IDE, Soichiro	東京都医学総合研究所 依存性薬物プロジェクト	156-8506 東京都世田谷区上北沢2-1-6	03-6834-2390
稲野辺　厚 INANOBE, Atsushi	大阪大学大学院医学系研究科 分子細胞薬理学	565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2	06-6879-3512
今西　正樹 IMANISHI, Masaki	徳島大学病院薬剤部	770-8503 徳島市蔵本町2-50-1	088-633-7471
梅村　将就 UMEMURA, Masanari	横浜市立大学医学部医学科 循環制御医学	236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦3-9	045-787-2575
大村　　優 OHMURA, Yu	北海道大学大学院医学研究科 神経薬理学	060-8638 北海道札幌市北区北15条西7丁目	011-706-5059
金子　雪子 KANEKO, Yukiko	静岡県立大学薬学部 薬理学	422-8526 静岡市駿河区谷田52-1	054-264-5691
釜井　隆男 KAMAI, Takao	獨協医科大学医学部 泌尿器科学	321-0293 栃木県下都賀郡壬生町北小林880	0282-87-2162
河内　雅直 KAWACHI, Masanao	ゼリア新薬工業株式会社 中央研究所	360-0111 埼玉県熊谷市押切字沼上2512-1	048-536-3456
北尾　達哉 KITAO, Tatsuya	京都薬品工業株式会社 創薬研究本部	604-8444 京都市中京区西ノ京月輪町38	075-812-2248
北田　研人 KITADA, Kento	バンダービルト大学医療センター 臨床薬理学部門	2213 Garland Ave, P435 MRBIV Nashville, TN, 37232, USA	+1 615-499-8965
鬼頭　佳彦 KITO, Yoshihiko	佐賀大学医学部 生体構造機能学講座薬理学	849-8501 佐賀市鍋島5-1-1	0952-34-2277
香田　　健 KODA, Ken	塩野義製薬株式会社 創薬疾患研究所	561-0825 大阪府豊中市二葉町3-1-1	06-6331-6532
斉藤　真也 SAITO, Shin-ya	静岡県立大学薬学部 薬理作用解析学	422-8526 静岡市駿河区谷田52-1	054-264-5692
菅原　英輝 SUGAWARA, Hideki	鹿児島大学医学部･歯学部附属病院 薬剤部	890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1	099-275-5543
鈴木　良明 SUZUKI, Yoshiaki	名古屋市立大学大学院薬学研究科 細胞分子薬効解析学	467-8603 愛知県名古屋市瑞穂区田辺通3-1	052-836-3472
千本松孝明 SENBONMATSU, Takaaki	埼玉医科大学 リサーチアドミニストレーションセンター	350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38	049-276-1226
田頭　秀章 TAGASHIRA, Hideaki	福岡大学医学部 薬理学	814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1	092-801-1011
髙橋　禎介 TAKAHASHI, Teisuke	大正製薬株式会社 医薬研究本部薬理研究所	331-9530 埼玉県さいたま市北区吉野町1-403	048-669-3089
Thumkeo, Dean	京都大学大学院医学研究科 創薬医学	606-8507 京都市左京区聖護院川原町53	075-366-7478
恒岡　弥生 TSUNEOKA, Yayoi	東京理科大学薬学部 薬理学	278-8510 千葉県野田市山崎2641	04-7124-1501
津元　国親 TSUMOTO, Kunichika	大阪大学大学院医学系研究科 分子細胞薬理学	565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2	06-6879-3512

氏　名	所属機関	〒 / 所在地	TEL
杜　　成坤 DU, Chengkun	国立循環器病研究センター研究所 心臓生理機能部	565-8565 大阪府吹田市藤白台5-7-1	06-6833-5012
内藤　篤彦 NAITO, Atsuhiko	東邦大学医学部 薬理学	143-8540 東京都大田区大森西5-21-16	03-3762-4151
中谷　善彦 NAKATANI, Yoshihiko	国際医療福祉大学薬学部	324-8501 栃木県大田原市北金丸2600-1	0287-24-3368
中村　正帆 NAKAMURA, Tadaho	東北医科薬科大学医学部 薬理学	981-8558 宮城県仙台市青葉区小松島4-4-1	022-727-4181
中村　浩之 NAKAMURA, Hiroyuki	千葉大学大学院薬学研究院 薬効薬理学	260-8675 千葉市中央区亥鼻1-8-1	043-226-2876
中村　裕二 NAKAMURA, Yuji	東邦大学医学部 薬理学	143-8540 東京都大田区大森西5-21-16	03-3762-4151
中山　博之 NAKAYAMA, Hiroyuki	大阪大学大学院薬学研究科 臨床薬効解析学	565-0871 大阪府吹田市山田丘1-6	06-6879-8252
名和　幹朗 NAWA, Mikiro	東京医科大学医学部 薬理学	160-8402 東京都新宿区新宿6-1-1	03-3351-6141
西田清一郎 NISHIDA, Seiichiro	医療法人青心会郡山青藍病院 漢方内科	639-1136 奈良県大和郡山市本庄町1-1	0743-56-8000
西中　　崇 NISHINAKA, Takashi	近畿大学医学部 薬理学	589-8511 大阪府大阪狭山市大野東377-2	072-366-0221
野中　美希 NONAKA, Miki	国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理	104-0045 東京都中央区築地5-1-1	03-3542-2511
濵口　正悟 HAMAGUCHI, Shogo	東邦大学薬学部 薬物学	274-8510 千葉県船橋市三山2-2-1	047-472-2106
松﨑　伸介 MATSUZAKI, Shinsuke	和歌山県立医科大学医学部 薬理学	641-0012 和歌山市紀三井寺811-1	073-441-0629
眞部　孝幸 MANABE, Takayuki	中京学院大学看護学部 形態機能学･臨床薬理学	509-6192 岐阜県瑞浪市土岐町2216	0572-68-4598
三上　義礼 MIKAMI, Yoshinori	東邦大学医学部 生理学講座統合生理学	143-8540 東京都大田区大森西5-21-16	03-3762-4151
宮岸　寛子 MIYAGISHI, Hiroko	国際医療福祉大学薬学部 薬理学	324-8501 栃木県大田原市北金丸2600-1	0287-24-3368
村上　慎吾 MURAKAMI, Shingo	東邦大学医学部 生理学講座統合生理学	143-8540 東京都大田区大森西5-21-16	03-3762-4151
山村　　彩 YAMAMURA, Aya	金城学院大学薬学部 薬理学	463-8521 愛知県名古屋市守山区大森2-1723	052-798-7474
山本　清文 YAMAMOTO, Kiyofumi	日本大学歯学部 薬理学	101-8310 東京都千代田区神田駿河台1-8-13	03-3219-8126
吉田　隆行 YOSHIDA, Takayuki	北海道大学大学院医学研究科 神経薬理学	060-8638 北海道札幌市北区北15条西7丁目	011-706-5059
李　　鍾國 LEE, Jong-Kook	大阪大学大学院医学系研究科 先進心血管再生医学共同研究講座	565-0871 大阪府吹田市山田丘2-2	06-6879-3643
渡辺　　俊 WATANABE, Shun	北里大学薬学部 薬理学	108-8641 東京都港区白金5-9-1	03-5791-6254
渡辺　拓也 WATANABE, Takuya	福岡大学薬学部 臨床疾患薬理学	814-0180 福岡市城南区七隈8-19-1	092-871-6631